

令和 6 年度 事業報告書

I. 松山紅梅会・法人関連

【令和 6 年度まとめ】

令和 6 年度は介護報酬改定の年にあたり、殆どの事業において介護報酬単価が引き上げられたことから、法人経営の健全化を最大の目標とし、黒字収支(16,320 千円)の当初予算を編成したが、殆どの事業において目標を達成することができず、赤字収支に転じてしまった。

赤字収支の要因については目標値の達成に至らなかったことが最大の要因ではあるが、高齢事業において運営の基礎となる食費、燃料費、衛生用品等の様々な物価が高騰したことも大きく影響した。

また、水泥拠点においては新型コロナウイルス発生以降、デイサービス事業の成績が回復せず、悪化の一途を辿っていることや、訪問介護事業の介護報酬単価の引き下げによる収支の悪化、更には福利厚生事業として運営している託児所のマイナス収支が重なり、法人経営に大きな影響を与えており、今後の事業運営展開を再考しなければならない状況ともなっている。

そんな中で明るい材料とすれば、当法人が目指す「ごちゃませ福祉」において、コロナ禍で3年以上の計画停止となっていた「就労継続支援事業 B 型」が開設し、「いつもの-Itsumono-」における計画が新たなフェーズを向かえ、法人として新たなチャレンジが始まった年となったことである。

障がい利用者を中心として運営するレストランと銭湯は日を追うごとに周知もされ、賑わいを増しているところではあるが、法人として障がい事業は初のチャレンジとなったこともあり、利用者へのアプローチのノウハウを持たないことで苦戦を強いられるなど、収支面での課題が大きく残った。

「いつもの-Itsumono-」の建設計画、新型コロナウイルスの流行が重なり、3 期連続赤字収支であったところを昨年度ようやく黒字化させたことから、法人経営を盤石化させる年度とすることを目指したが、事業ごとに様々な課題をクリアできず、反省しか残らない年となった。

1. 事業概要

(1)法人名

社会福祉法人 松山紅梅会

(2)所在地

松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)法人の事業

第1種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
軽費老人ホーム(ケアハウス)	ケアハウス梅本の里	30名	平成 6年 4月 1日
介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム 梅本の里	59名	平成 7年 4月 1日
	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにつと	30名	平成26年 8月23日
地域密着型介護老人福祉施設 入所者生活介護	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	29名	令和 2年10月26日

第2種社会福祉事業

施設(事業)種別	施設名	定員	事業開始年月日
通所介護事業	デイサービス 梅本の里	45名	平成 6年 4月 1日
	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	45名	平成23年12月26日
短期入所生活介護事業	短期入所生活介護 梅本の里	11名	平成 7年 4月 1日
	ショートステイ 梅本の里ゆにつと	10名	平成26年12月26日
	梅本の里サテライト・ ショートステイ	10名	令和 2年12月15日
在宅介護支援センター	梅本の里	—	平成 7年 4月 1日
訪問介護事業	訪問介護事業 梅本の里	—	平成 7年10月 1日
認知症対応型共同生活介護事業	グループホーム 梅本の里	18名	平成13年 5月15日
居宅介護・重度訪問介護	梅本の里		平成30年10月 1日
生活介護	共生型デイサービス 梅本の里	45名	令和 5年10月 1日
就労継続支援 B 型	就労継続支援(B型) いつもの	20名	令和 6年 4月 1日

公益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
指定居宅介護支援事業所 梅本の里	居宅介護支援に関する事業	平成11年 9月13日
事業所内託児所梅本の里・小梅	事業所内託児所	平成23年12月26日

収益事業

施設(事業)種別	事業内容	事業認定年月日
—	太陽光発電の売電事業	平成25年 4月 1日

2. 役員構成

理事	定数	6人(現員 6人、欠員 0人)
監事	定数	2人(現員 2人、欠員 0人)
評議員	定数	7人(現員 7人、欠員 0人)

3. 理事名簿

(令和7年3月31日現在)

	区分	氏名	職歴(公職含む)	役員構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	理事長	大野 輝男	松山南交通安全協会副会長 松山市交通安全協会連合会 理事		○			
2	理事	藤久 敬子	元梅本の里・小梅施設長	○				
3	理事	杉本 太一	高齢者総合福祉施設 梅本の里統括施設長			○		
4	理事	門屋 征洋	前公益社団法人認知症の人 と家族の会愛媛県支部代表	○				
5	理事	渡部 誠	高齢者総合福祉施設 梅本の里事務局長					○
6	理事	青木 良一	小野地区社会福祉協議会 会長		○			

4. 監事名簿

	区分	氏名	職歴(公職含む)	役員構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設長	その他	財務
1	監事	八木 繁明	元連合愛媛事務局長					○
2	監事	秋川 裕恵	秋川裕恵税理士事務所					○

5. 評議員名簿

	区分	氏名	職歴(公職含む)	役員の構成				
				知識 経験者	地域 代表	施設 長	その他	財務
1	評議員	立川 百恵	愛媛県生活協同組合連合会顧問				○	
2	評議員	野村 和男	元旧株式会社メルファム四国支社				○	
3	評議員	渡部 克彦	松山市議会議員		○			
4	評議員	宮内 敏浩	元小野地区社会福祉協議会会長		○			
5	評議員	谷 向 知	愛媛大学大学院医学系研究科教授	○				
6	評議員	仙波 修	小野地区自主防災組織連合会会長		○			
7	評議員	松岡 司志	日本ALS協会愛媛県副支部長				○	

6. 理事会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
R6.6.1	6/6	1.令和5年度事業報告に関する件 2.令和5年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 3.各種規程の改定(案)に関する件 4.令和6年度定時評議委員会に関する件 報告事項:理事長の職務執行について	1.原案通り可決 2.原案通り可決 3.原案通り可決 4.原案通り可決
R6.11.9	6/6	1.各種規程の改定(案)に関する件 報告事項:理事長の職務執行について	1.原案通り可決
R7.3.29	6/6	1.令和6年度第1回補正予算(案)に関する件 2.令和7年度事業計画(案)に関する件 3.令和7年度当初予算(案)に関する件 4.評議員選任・解任委員会細則の改定(案)に関する件 5.各種規程の改定(案)に関する件 6.外国人留学生奨学金制度による受け入れに関する件 7.令和6年度松山市指導監査指摘事項に関する件 8.令和7年度松山紅梅会管理職人事(案)に関する件 報告事項1:理事長の職務執行について 報告事項2:理事・監事・評議員の改選について	1.原案通り可決 2.原案通り可決 3.原案通り可決 4.原案通り可決 5.原案通り可決 7.原案通り可決 8.原案通り可決

7. 評議員会開催状況

開催年月日	出席者/定数	議 題	決 議 事 項
R6.6.18	7/7	1.令和5年度事業報告に関する件 2.令和5年度決算報告並びに監事監査報告に関する件 報告事項:令和6年度事業計画及び予算について	1.原案通り可決 2.原案通り可決

8. 職員の状況

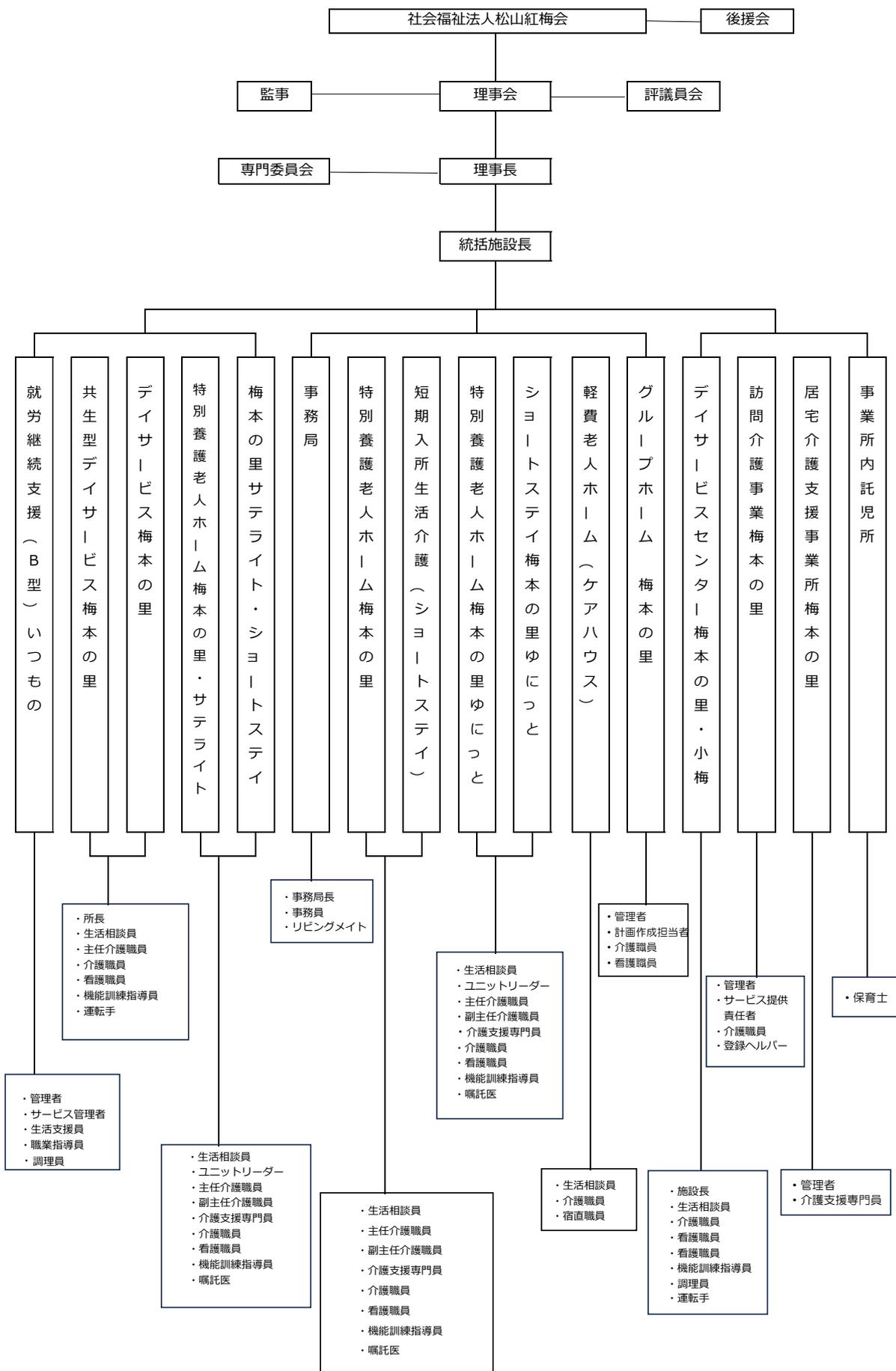
(令和7年3月31日現在)

		管 理 者	事 務 員	管 理 栄 養 士	介 護 支 援 専 門 員	生 活 相 談 員	介 護 職 員	看 護 職 員	計 画 作 成 担 当 者	サ ー ビ ス 提 供 担 当 者	そ の 他	合 計
軽費老人ホーム (ケアハウス)	実 人 数	1 兼務				1	(2)					2 (2)
特別養護老人ホーム (梅本の里)	実 人 数	1 兼務	3	1 兼務	(1)	1	16 (3)	3 (1)			(3)	25 (8)
地域密着型介護老人福祉施設 (梅本の里・サテライト)	実 人 数	1 兼務	(1)	1 兼務	1 兼務	1	12 (1)	2 (1)			(2)	18 (5)
特別養護老人ホーム (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼務		1 兼務	1 兼務	1	13 (2)	1 (3)				18 (5)
通所介護事業・共生型 (ディサービス梅本の里)	実 人 数	1				1	2 (8)	(3)			2 (3)	6 (14)
通所介護事業 (梅本の里・小梅)	実 人 数	1	(1)			1	1 (10)	(4)			(5)	3 (20)
短期入所生活介護 (梅本の里)	実 人 数	1 兼務					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里・サテライト)	実 人 数	1 兼務					4					5
短期入所生活介護 (梅本の里ゆにっと)	実 人 数	1 兼務					4 (1)					5 (1)
訪問介護事業	実 人 数	1					2 (7)			2		5 (7)
居宅介護支援事業所	実 人 数	1			3 (1)							4 (1)
認知症対応型共同生活介護事業 (グループホーム)	実 人 数	1					12 (1)	1	1		(1)	15 (2)
事業所内託児所	実 人 数										1 (5)	1 (5)
合 計	実 人 数	12	3 (2)	3	5 (2)	6	70 (35)	7 (12)	1	2	3 (19)	112 (70)

※ () 書きは非常勤職員

9. 運営組織体制

(令和7年3月31日現在)



10. 避難訓練

【第1回】

(1)実施日時：令和6年11月13日 午後15時00分から16時00分まで

(2)訓練の概要：1.日中想定のため出勤職員全員にて避難訓練

特養厨房より火災発生しているのを特養職員が発見し、初期消火に努めたが消火に努めたが消火に至らず延焼中。他部署に連絡、119番通報と同時に館内放送にて避難誘導開始。火災発見担当職員は、他職員に大きな声で火災を知らせ、消火器(消火栓)により初期消火に努める。連絡を受けた職員は各部署に連絡及び119番通報を行う。館内放送にて火災発生と避難場所を知らせ、直ちに入居者の避難誘導を開始。日中想定のため全職員にて避難誘導を行う。

避難場所は特養が1階、2階は、グループホーム側居室へ、ゆにっとはGH側出入口、GHは、エレベーター側へ避難、ケアハウスはケアハウス玄関より避難し避難経路の確保を行う。避難が終了した部署から終了時間を確認し、防火管理者まで報告。

2.消火訓練

ケアハウス厳寒前にて、水消火器を使用しての消火訓練を実施。

(3)実施規模

参加人数：特養、ケアハウス、グループホーム、ゆにっと 職員・入居者 150名
消防職員(東部支所)

訓練方法：消火、通報、避難訓練

(4)講評・反省：日中想定で全職員対応であったため円滑な避難が行えた。

特に今回は、緊張感をもって職員が訓練に挑む姿勢があり、全体的に非難はスムーズに行えた。

ただし、特養の重度介護者は避難訓練に参加していないため、実際の災害時の想定は困難である。

【第2回】

(1)実施日時：令和6年12月27日 午後14時00分から15時00分まで

(2)訓練の概要：夜間想定のために、夜勤者7名、宿直者1名にて避難訓練

ゆにっと特養玄関付近より火の手が上がっているのを宿直職員が発見。

特養夜勤者に知らせるとともに初期消火に努めるが延焼中。知らせを受けた特養職員が全部署に連絡。特養2階より119番通報(仮定)。各部署館内放送にて避難誘導開始。火災発見担当職員は、他職員に大きな声で火災を知らせ、消火器(消火栓)により初期消火に努める。連絡を受けた職員は各部署に連絡及び119番通報を行う。館内放送にて火災発生と避難場所を知らせ、直ちに入居者の避難誘導を開始。夜間想定のため夜勤・宿直にて避難誘導を行う。

避難場所は特養が1階玄関、2階はグループホーム側居室へ、ゆにっとはGH側出入口、GHは、エレベーター側へ避難、ケアハウスはケアハウス玄関より避難し避難経路の確保を行う。避難が終了した部署から終了時間を確認し、防火管理者まで報告。

(3)実施規模

参加人数：特養、ケアハウス、グループホーム、ゆにっと 入居者 137 名

夜勤者 7 名、宿直職員 1 名

訓練方法：消火、通報、避難訓練

- (4)講評・反省：夜間想定 of 避難訓練は夜勤者等の少数での対応となるため、毎回であるが時間を要する。特に宿直者が発見者となる場合はケアハウスの避難誘導が遅くなり、時間を要してしまう。先に避難した他部署からの応援も、避難後の見守りがある為、実質困難であると感じる。

11. 協力医療機関

(1) 嘱託医師等の状況

医師名	永山 晋也	中城 敏	中城 有喜	永山 晃之
診療機関名	永山内科・ 循環器内科	砥部病院	砥部病院	永山歯科
診療科目	内科・消化器科・ 循環器科	内科	心療内科	歯科
勤務の形態	非常勤	非常勤	非常勤	非常勤

(2) 契約病院

病院名	医療法人 誠志会 砥部病院
所在地	伊予郡砥部町麻生40-1
診療科目	内科・脳神経外科・心療内科・眼科・整形外科・皮膚科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科・人間ドッグ

病院名	医療法人社団 永山内科・循環器内科
所在地	松山市北梅本町666-2
診療科目	内科・循環器科

(3) 協力病院

病院名	所在地	診療科目
中川病院	松山市南梅本町甲 58	内科・外科
生島眼科	東温市野田 2 丁目 103-3	眼科
宮内皮膚科クリニック	松山市北梅本町甲 899-4	皮膚科

12. 加入団体一覧

令和7年3月31日

団体名	会長名	事務局所在地	年会費	所属
中予地区老人福祉施設協議会	成川 ゆかり	松山市中西内250番地 2 特別養護老人ホーム 聖マルチンの家内 Tel(089)975-5558	20,000 円	特養
愛媛県老人福祉施設協議会	菅原 哲雄	愛松山市持田町 3 丁目 8-15 媛県社会福祉協議会 地域福祉部 福祉人材課内 Tel(089)921-8566	38,000 円	梅本 デイ
			38,000 円	小梅
			214,350 円	特養
愛媛県地域密着型サービス協会	河本 圭仁	松山市土居田町 621-1 Tel(089)974-1213	20,000 円	GH
愛媛県老人福祉施設協議会	本田 元広	松山市持田町 3 丁目 8-15 愛媛県社会福祉協議会 Tel(089)921-8344	10,000 円	ケア
小野地区社会福祉協議会	青木 良一	松山市水産町 972-1 ふれあいサロン小野 Tel(089)976-1200	1,000 円	特養
一般社団法人えひめ若年 人材育成推進機構	服部 正	松山市湊町四丁目 8 番地 13 Tel(089)913-8686	30,000 円	本部
自衛隊松山駐屯地小野地区 協力会	丹川 維孝	松山市南梅本町乙 115 Tel(089)975-0911	2,000 円	本部

計 7 団体 373,350円

13. 広告協賛一覧表

日付	内容	金額
R6. 7. 3	自衛隊松山駐屯地小野地区協力会 自衛隊広報誌広告料	20,000 円
R6. 7.22	ONO スポーツ倶楽部 協賛広告料	20,000 円
R6. 7.29	(株)MMCドリームサービス 広告協賛料	10,000 円
R6. 9.17	(株)Project-Do アンサンブルクラシカトリオ & 葉子コンサート 広告料	30,000 円

計 4 団体 80,000 円

14. 職員研修一覧

参加研修: 61 件 参加人数: 87 名

NO	日時	研修名	主催 / 場所	参加者
1	R6.4.13	エンドオブライフ・ケア協会設立9周年シンポジウム いつか当事者になる「わたし」へ ～認知症当事者と子どもたちの語りから学ぶ～	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ 横浜市 ウィルング横浜	1
2	R6.4.16	第200回記念:ユニバーサル・ホスピスマインドをもとに最強のチーム を作ろう	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
3	R6.4.22	「介護事業所に求められるICT化」	愛媛県地域密着型サービス協会/ IYO審みらい館	1
4	R6.5.11	「折れない心を育てる いのちの授業」講師トレーニング	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1 ファンリ テーター
5	R6.5.22	高齢化するアジア諸国に見るユニバーサル・ホスピスマインド(佐々 木淳さん):第201回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
6	R6.5.24	令和6年度 人材育成研修会	中予地区老人福祉施設協議会/ 松山市教育委員研修センター	3
7	R6.5.30	令和6年度 第1回総会・施設長研修会	愛媛県老人福祉施設協議会/ 愛媛県総合社会福祉会館	1
8	R6.6.3	他法人合同事例検討会	居宅介護支援事業所所属の子病院・中川病院・ユー ミーケア・梅本の里/鷹の子館	4
9	R6.6.13	第84回OKネット 本人視点で考える身体拘束排除	OKネット小野地区事業所連絡会/ 松山リハビリテーション	4
10	R6.6.18	いのちの授業～認知症とともに生きる～(浜田努さん): 第202回ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
11	R6.6.21	「社内勉強会開催のコツ～効果的なOPP-JTを行うために」	愛媛県地域密着型サービス協会/ オンライン開催	1
12	R6.6.30	「折れない心を育てるいのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ 味酒公民館	1 補助講師
13	R6.6.21	第19回愛媛県老人福祉施設大会	愛媛県老人福祉施設協議会/ 愛媛県民文化会館	1
14	R6.7.16	マザーテレサ「死を待つ人の家」で学んだこと:誰からも必要とされていないと感じて いた人が生まれてきてよかったと思えるには(片柳弘史さん)第203回 ユニバーサ ル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
15	R6.7.17	「それからどうする?BCP～作ってみたは良いけれど」	愛媛県地域密着型サービス協会/ オンライン開催	1
16	R6.7.20	令和6年愛媛県認知症対応型サービス事業者開設研修	愛媛県、介護労働安定センター/ フジコビル・グループホームあゆみ	1
17	R6.8.20	第1回 包括研修会 介護現場におけるカスタマーハラスメントについ	包括小野久米/ 松山リハビリテーション	2
18	R6.8.20	ACPの光と影 ～本人と家族と援助者が穏やかに過ごせるために私 にできること～:第204回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
19	R6.8.23	「認知症の人のためのレクリエーション～一人でもできる 今すぐできる レクリエーション～」	愛媛県地域密着型サービス協会/ テクノプラザ愛媛	2
20	R6.8.22 R6.8.23	第71回四国老人福祉施設関係者研究大会	全国老人福祉施設協議会・四国老人福祉施設/ アスティとくしま 徳島グランヴィリオホテル	4
21	R6.8.25	「折れない心を育てる いのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ サイボウズ松山オフィス	1 講師
22	R6.9.1	SOMPOケア様第4期介護プライドマイスター対象援助者養成基礎講 座	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1 ファンリ テーター
23	R6.9.5	第85回OKネット 小野久米地区での防災の取り組みを学びよう	OKネット小野地区事業所連絡会/ 松山リハビリテーション	4
24	R6.9.6	「企業トップクラス及び構成採用選考人権啓発推進員研修会」	松山市職業安定所/ 松山市総合コミュニティセンター	1
25	R6.9.11	熊本県福祉避難所視察研修	愛媛県老人福祉施設協議会/熊本県熊本市ライ ホーム、益城ひろやす荘、荒尾市白寿園	1
26	R6.9.11	第1回 包括事例検討会	包括小野久米/松山リハビリテーション	1
27	R6.9.17	誰もが自分の健康を決める主人公に:多様性の国オランダから学ぶ ポジティブヘ ルスとコミュニケーション(山田 拓さん) 第205回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
28	R6.9.18	「リーダーとしての誤算 チームの課程について皆で話しましょう」	愛媛県地域密着型サービス協会/テクノプラザ愛媛	1
29	R6.9.21	介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会	一般社団法人愛媛県介護福祉会/ 松前町福祉センター集會室・聖カタリナ大学	3
30	R6.9.28	松山ベテル後援会主催2024年講演会 「あなたの強さはあなたの弱さから生まれる」	松山ベテル後援会/ 日本キリスト教団松山教会	1
31	R6.9.28	松山在宅医療連絡会South 「もしバナゲーム」	松山市医師会 松山在宅医療連絡会/ 松山市医師会館	1

NO	日時	研修名	主催 / 場所	参加者
32	R6.10.2	介護現場における不適切ケアとは ～虐待・ハラスメントについて～	愛媛県老人福祉施設協議会/ 愛媛県総合社会福祉会館	2
33	R6.10.6	エンドオブライフ・ケア愛媛定期学習会 「がん防災セミナー」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ サイボウズ松山オフィス・オンライン開催	1
34	R6.10.15	第2回 包括事例検討会	包括小野久米/ 松山リハビリテーション	3
35	R6.10.15	いのちに驚く対話―死に直面する人と、私たちは何を語り合えるのか―岡田圭さんをゲストに迎えて～: 第206回ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン	1
36	R6.10.20	令和6年度四国ブロックホームヘルパー研修会	愛媛県ホームヘルパー協議会/ 愛媛県身体障がい者福祉センター	1
37	R6.11.6	「うちには虐待はありません」～そう思っていたのに～	愛媛県地域密着型サービス協会/ テクノプラザ愛媛	1
38	R6.11.12	東温市ゲートキーパー養成講座	東温市健康推進課/ 東温市保健福祉センター	1
39	R6.11.14	「折れない心を育てる いのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ 松山市立三津浜中学校	1 補助講師
40	R6.11.18～24	動画研修「介護現場のターミナルケア・看取りについて」	松山市社会福祉協議会/ 動画視聴	1
41	R6.11.19	ふれあう感覚から“わたし”と“わたしたち”をつなぐウェルビーイングを作りあう技術と考え方(渡邊淳司さん): ユニバーサル・ホスピスマインド 第207回	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
42	R6.11.23	「折れない心を育てるいのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ いつものホール	1 講師
43	R7.11.25	「認知症の人の終末期ケア」～いつも通りの生活の中での看取り～	愛媛県地域密着型サービス協会/ 愛媛県社会福祉会館	1
44	R6.12.1	エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1 ファンリ テーター
45	R6.12.4	「折れない心を育てるいのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ 東温市立重信中学校	1 補助講師
46	R6.12.9	令和6年度愛媛県ホームヘルパーブロック別研修会 「認知症サポーター養成講座」「過去の教訓から考える危機管理」	愛媛県ホームヘルパー協議会/ オンライン開催	1
47	R6.12.11	令和6年度テーマ別研修④「認知症の理解と対応」	愛媛県老人福祉施設協議会/ 愛媛県総合社会福祉会館	1
48	R6.12.16	第2回 包括研修会 あらためて学ぶ成年後見制度と実務	包括小野久米/ テクノプラザ愛媛	4
49	R6.12.17	今年一年をふりかえり 未来に向けて夢を語る会: 第208回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
50	R7.1.21	難病者の働きやすい社会は 誰もが働きやすい社会(重光喬之さん)第209回ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
51	R7.1.23	認知症の人のアクティビティ～認知症の人の活躍できる場面の作り方～	愛媛県地域密着型サービス協会/ オンライン開催	2
52	R7.1.24	令和6年度 中予地区老人福祉施設協議会 「自己決定支援について 研修会」	中予地区老人福祉施設協議会/ 愛媛県総合福祉会館	1
53	R7.1.25	第10回 異業種交流会 for 医療・福祉 in 愛媛 「折れない心を育てるいのちの授業 ～苦しくても乗り越えられるヒント～」	異業種交流会 for 医療・福祉 in 愛媛/ 松山市男女共同参画推進センター	1
54	R7.2.6	第55回中小企業問題全国研究集会	中小企業同友会全国協議会/ 愛媛県民文化会館	1
55	R7.2.18	在宅医療の質を考える(小野沢 滋さん):第210回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
56	R7.2.22	「折れない心を育てるいのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ いつものホール	1 講師
57	R7.2.24	ユニットリーダー研修	日本ユニットケア推進センター/ 社会福祉法人泰ダイライフ福祉会特別養護老人ホーム絆の広場	1
58	R7.3.6	「折れない心を育てるいのちの授業」	エンドオブライフ・ケア愛媛/ 聖カタリナ学園高等学校	1 補助講師
59	R7.3.15	令和6年度 愛媛県若年性認知症支援コーディネーター事業	愛媛県・ていれぎ荘/ テクノプラザ愛媛	2
60	R7.3.18	「ひとり死」時代の人生のしまい方 ～今を豊かに生きるために～(滝野隆浩さん):第211回 ユニバーサル・ホスピスマインド	(一社)エンドオブライフ・ケア協会/ オンライン開催	1
61	R7.3.22	第9回 つながる支援 勉強会 身元保証(死後事務委任)と意思決定支援	NPO法人ささえる/ 松山市総合福祉センター	1

15.ヒヤリ・ハット及び事故発生状況

●施設内におけるヒヤリ・ハット発生状況(令和6年度) <総件数54件>

【内容】

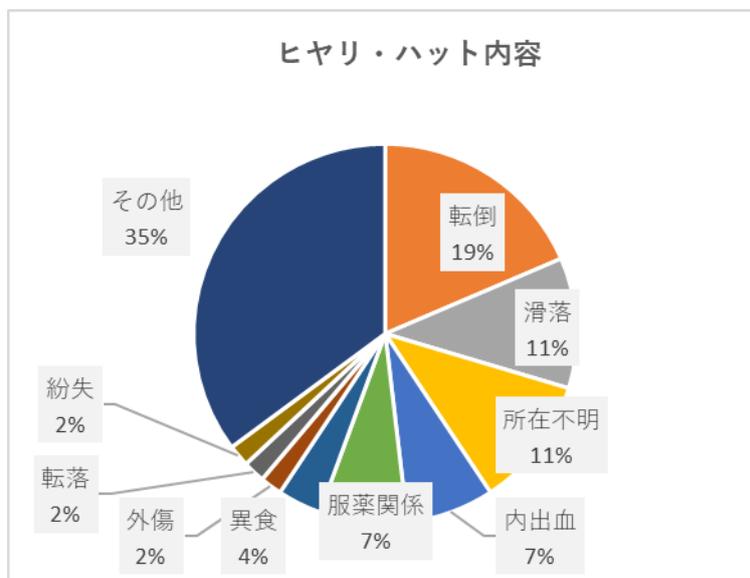
	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
転倒	0	0	1	0	7	1	0	0	0	0	10
転落	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
滑落	1	0	3	0	0	2	0	0	0	0	6
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
外傷	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
所在不明	0	0	0	0	4	1	1	0	0	0	6
服薬関係	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	4
その他	5	1	3	0	6	2	1	1	0	0	19
紛失	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
内出血	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
合計	10	2	9	0	19	9	2	2	0	1	54

【所見】

	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
表面剥離	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
内出血	2	1	0	0	0	1	0	0	0	0	4
外傷	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
打撲	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
異常なし	7	1	6	0	13	6	2	0	0	0	36
誤嚥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
無し	1	0	0	0	5	2	0	2	0	0	10
合計	10	2	9	0	19	9	2	2	0	1	54

【場所】

	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
居室	3	0	2	0	2	2	1	0	0	0	11
食堂・ホール	4	1	5	0	13	4	0	2	0	0	29
廊下	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
トイレ	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	5
脱衣場	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
浴室	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	3
その他	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
合計	10	2	9	0	19	9	2	2	0	1	54



●施設内における事故発生状況(令和6年度) 総件数 <474件>

【内容】

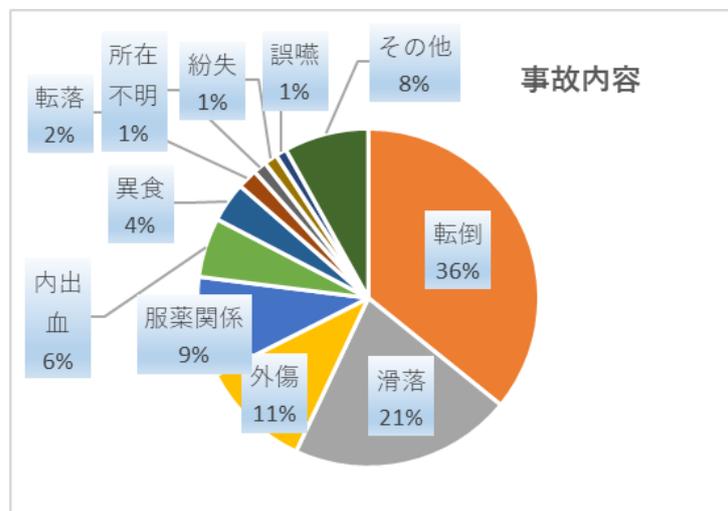
	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
転倒	60	20	13	8	30	15	8	6	10	0	170
転落	4	0	1	0	1	3	0	0	0	0	9
滑落	43	15	12	5	8	10	5	1	0	1	100
異食	17	0	0	0	0	1	0	0	0	0	18
誤嚥	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	5
外傷	27	5	4	2	1	6	1	1	2	1	50
所在不明	0	1	0	0	1	1	2	1	0	0	6
器物破損	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	4
服薬関係	22	8	2	0	7	6	0	0	0	0	45
その他	16	5	4	0	2	3	1	1	1	1	34
紛失	1	4	0	0	0	1	0	0	0	0	6
内出血	16	4	0	0	0	7	0	0	0	0	27
合計	210	62	37	15	50	54	19	10	14	3	474

【所見】

	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
表面剥離	19	5	2	1	0	5	0	0	0	0	32
内出血	20	4	1	1	1	7	2	0	0	0	36
外傷	16	5	8	6	3	2	2	0	0	1	43
吸引	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
打撲	12	2	2	2	0	2	0	0	0	0	20
その他	30	7	6	0	6	7	1	1	1	1	60
異常なし	103	38	16	5	21	27	13	6	6	1	236
状態観察	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	7
骨折	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
誤嚥	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
無し	5	1	1	0	19	4	1	0	3	0	34
合計	210	62	37	15	50	54	19	10	14	3	474

【場所】

	特別養護老人ホーム 梅本の里	短期入所生活介護 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと	ショートステイ 梅本の里ゆにっと	グループホーム 梅本の里	特別養護老人ホーム 梅本の里・サテライト	梅本の里サテライト・ ショートステイ	デイサービス梅本の里	デイサービスセンター 梅本の里・小梅	訪問介護 梅本の里	合計
居室	100	34	25	10	28	24	9	0	0	2	232
食堂・ホール	84	19	11	4	18	18	4	4	5	0	167
廊下	0	2	1	0	0	1	3	0	0	0	7
トイレ	15	1	0	1	1	2	1	1	1	0	23
脱衣場	5	4	0	0	1	3	0	0	0	0	13
浴室	3	0	0	0	0	2	1	3	3	0	12
その他	3	2	0	0	2	4	1	0	0	1	13
玄関	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
リハビリ室	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
施設外	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	210	62	37	15	50	54	19	10	14	3	474



《特養・ショート》

○ヒヤリ・ハット報告数 特養： 10件 ショート： 2件
 ○事故報告書 特養：210件 ショート：62件

ヒヤリ・ハット・事故報告総数は 293 件(前年度 287 件)となり、前年度より 5 件増となった。令和 5 年度と比較すると入居及びショートステイの事故報告の件数が微増し、ヒヤリ・ハットの報告件数は大幅に下がった。要因としては、入居者数が増加していった事。又、ヒヤリ・ハットの報告が減ったことで直接事故につながる事例が多くなったのも要因である。

小さな内出血でも発見したらヒヤリ・ハットで報告するように推進しているが、ヒヤリ・ハット報告数が少ないことは重大事故への見落としになる恐れがある為、令和7年度はヒヤリ・ハット報告数が増えるよう発信していく。

令和 6 年度も、ある程度の職員の補充はできたが、現場の人員固定が上手くいかない事が、少なからず今回の事故・ヒヤリの件数結果に繋がってしまった事も原因一つと考えられる。今後、研修やカンファレンスで対応を協議し職員間で再発防止のスキルアップにつながる方法を共有し、事故の減少に努めていきたい。

●R6 年度 特養リスクマネジメント委員会開催状況

R6 年 5 月 14 日(火)	R6 年 4 月のヒヤリハット、事故報告の検証 皮膚剥離の事故が多くみられる。高齢者の皮膚は脆弱であることを再認識し、職員に介助方法の見直しを再度、注意するよう指示した。
R6 年 6 月 14 日(金)	R6 年 5 月のヒヤリハット、事故報告の検証 職員の見守り不足による転倒事故が続いた。他の利用者の見守り等もある為、手薄になりがちであるが、歩行が不安定な入居者の横には職員が付き添う等して再発を防止するとともに見守りも強化していく。
R6 年 7 月 23 日(火)	R6 年 6 月のヒヤリハット、事故報告の検証 入居者の配薬時に嚥下確認を実施せず、薬が床に落ちている事故が発生している。介護職員の配薬の服用の際の嚥下確認が大切なことを職員一人ひとりが認識していく。
R6 年 8 月 21 日(水)	R6 年 7 月のヒヤリハット、事故報告の検証 自立されている利用者の歩行による転倒が続いた。他の利用者の見守り等もある為、手薄になりがちであるが、歩行が不安定な入居者の横には職員が付き添う等して再発を防止するとともに見守りも強化していく。
R6 年 9 月 17 日(火)	R6 年 8 月のヒヤリハット、事故報告の検証 浴室にて職員の注意不足による骨折事故が 1 件発生している。その後整形外科を受診し、早期対応により家族とのトラブルはなかったが、再度同様の事故がないよう検証等を実施する。
R6 年 10 月 22 日(火)	R6 年 9 月のヒヤリハット、事故報告の検証 入居者の配薬時に嚥下確認を実施せず、薬が床に落ちている事故が発生している。6 月も同様の事故が発生しているため、再度カンファレンス等で職員周知を行う。
R6 年 11 月 15 日(火)	R6 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 職員の見守り不足による転倒があった。他の利用者の見守り等もある為、手薄になりがちであるが、歩行が不安定な入居者の横には職員が付き添う等して再発を防止するとともに居室にいる場合はセンサーマットを使用する等見守りを強化し、再発防止を行う。

R6年12月20日(金)	R6年11月のヒヤリハット、事故報告の検証 同じ入居者によるベッドからの滑落が続いた。家族に連絡し対応を協議。見守りが多くできる居室移動を行い、今後環境の変化による様子観察を継続していく。
R7年1月17日(金)	R6年12月のヒヤリハット、事故報告の検証 職員の管理不足による義歯の所在不明事故があった。毎食後の口腔ケアごとに義歯の有無を確認する必要があるが、確認を怠った為、不明事故が発生してから発見するまで時間・労力を費やした。再度、定時の確認を怠らないよう表を作成し、再発防止に努める。
R7年2月18日(火)	R7年1月のヒヤリハット、事故報告の検証 内出血の報告が多くみられる。細かく皮膚観察をしている為と考えられるが、どこでぶつけたかの検証をしっかりと行い再発防止に努める。
R7年3月17日(月)	R7年2月のヒヤリハット、事故報告の検証 職員による入居者への配膳ミスがあった。幸い、食事形態が同じであった為、大きなトラブルはなかったが、食事形態が異なる方同士の配膳ミスは誤嚥等事故を引き起こすものになる為、再発防止を徹底する。
R7年4月18日(金)	R7年3月のヒヤリハット、事故報告の検証 他の入居者の薬を服薬させてしまう誤薬が1件発生している。その後の経過観察で特に体調の変化はみられておらず、大きな事故にはならなかったが、今後再発しないように職員一人ひとりが気を付けていく。

《サテライト・サテライトショート》

○ヒヤリハット報告数 サテライト:9件 ショート:2件

○事故報告数 サテライト:54件 ショート:19件

ヒヤリハット報告総数 11 件、事故報告総数 73 件となっている。発生内容は 1 位:転倒・転落・滑落(45 件)、2 位:内出血(8 件)、3 位:外傷(7 件)となっている。令和 6 年度は滑落の事故が増えていた。特に車椅子からの滑落が多く、原因としては座る際の位置が悪い事が多かった。座り直しや姿勢保持することで防ぐ事が出来るものが多く、今後改善していきたい。所在不明に関する事故も増えていた。特にユニット外で入居者を発見するケースが 2 件発生しており、どちらとも職員の施錠確認が行えていなかった事が原因だった。幸い施設の建物内で発見しており、入居者にケガ等はなかった。普段から行っている事でも、確認をしっかりと行うよう意識して、事故を未然に防げるよう努めていきたい。

●R6 年度 サテライトリスクマネジメント委員会開催状況

R6年5月21日(火)	R6年4月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落3件、外傷1件、内出血1件発生。 同じ入居者の転倒が続いてしまった。普段と違う様子が続いていた。転倒していたこともあり、いつも以上に見守りを強化するべきだった。
R6年6月25日(火)	R6年5月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転倒2件、内出血2件、服薬関係2件、その他2件発生。服薬したと思っていた薬が、ベッドの移乗時に服から落ちてきた。服薬介助は飲み込むまで見守りを行い、再発防止を行う。
R6年7月23日(火)	R6年6月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落3件、内出血1件その他4件発生。 精神が不安な状態の入居者が居室のガラスを割ろうとしていた。話を聞くと「ガラスで首切ろうとおもたんよ」と言われる。不穏な状態が見られた際は話を傾聴、声掛けを行うなど早期に対応し再発防止に努める。

R6年8月23日(金)	R6年7月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落2件、外傷2件発生。 他の利用者の対応中の為、ベットセンサーへの対応が遅れ、ベットから滑落してしまった。リスクの高い利用者の優先順位を考え対応し、再発防止を行う。
R6年9月25日(水)	R6年8月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落6件、服薬関係1件、その他3件発生。 朝食後の薬と夕食後の薬を間違えて服薬してしまう。服薬をセットしていた際に間違えていた。服薬をセット後、複数人で確認し、再発防止に努める。
R6年10月21日(月)	R6年9月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落3件、外傷・内出血2件、その他2件発生。 入浴の際に内出血を発見する。ベットから車椅子の移乗時にできたと思われる。介助抵抗がある為、移乗時は最新の注意を払うべきだった。
R6年11月29日(金)	R6年10月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落4件、内出血2件発生。 複数の滑落が発生した。滑落前に不穩が続いていた。不穩の原因を追究し、落ち着くまで見守りするなど、対応すべきだった。
R6年12月27日(金)	R6年11月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落5件、所在不明1件発生。 ユニット外で歩いている入居者を発見する。入口のロックが解除されていた。出入りする際は、必ずロックの確認を行う。
R7年1月21日(火)	R6年12月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・転落・滑落6件発生。 同じ利用者の居室での転倒が続いた。薬の影響で傾眠が続いていた。傾眠が強い際は臥床するなど転倒防止に努めるべきだった。
R7年2月27日(水)	R7年1月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落2件、内出血1件、その他2件発生。 自立歩行可能な利用者の左目付近に内出血が出来ているのを発見する。居室やフロアの行き来が多い利用者の見守りが不十分だった。見守りを強化し再発防止に努めた。
R7年3月14日(金)	R7年2月3月のヒヤリハット、事故報告の検証 転倒・滑落8件、外傷2件、所在不明2件、その他4件発生。 ユニット内の装飾を異食してしまった。口腔内確認するも飲み込んでしまった様子。直前まで激しい不穩状態が続いていたため、近くで見守りを行い、落ち着くまで待つべきだった。

《ゆにっと・ゆにっとショート》

○ヒヤリハット報告数 ゆにっと:9件 ショート:0件

○事故報告数 ゆにっと:37件 ショート:15件

ヒヤリハット報告総数 9 件、事故報告総数 52 件となっている。発生内容は 1 位:転倒・転落・滑落 (39 件)、2 位:外傷(6 件)、3 位:その他となっている。今年度は転倒・転落・滑落の件数が圧倒的に多くなっている。同じ利用者が転倒することが多く、再アセスメントが必要であり、しっかりと本人の状態を観察し、転倒防止をしていきたい。また誤薬も複数回起こっている。外傷も増えており、ベッド柵にぶついたりしてできている場合がある。その為、柵をタオルなどで保護するなどして環境による因子を少なくしていきたい。

●R6 年度 ゆにっとリスクマネジメント委員会開催状況

R6 年 5 月 10 日(金)	R6 年 4 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 4 件、ヒヤリハット 2 件発生。 自立歩行可能な利用者の転倒、転落事故が発生している。自分でできるが見守りが必要であることを再度確認し、しっかりと見守りができる環境を作っていく。
R6 年 6 月 22 日(土)	R6 年 5 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 7 件、ヒヤリハット 1 件発生。 夜間にそれぞれ別の利用者の転倒が複数回発生している。夜間は職員数も減っており、見守りも手薄になってしまうことが多いが、センサーマット等を上手く活用しながら転倒防止に努める。
R6 年 7 月 26 日(金)	R6 年 6 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 7 件発生。 転倒による外傷が複数回あった。普段より自主歩行可能な同一利用者が、複数回転倒ということで、見守り方法や再アセスメントを行い、転倒のリスクを再度確認する必要がある。
R6 年 8 月 31 日(土)	R6 年 7 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 6 件、ヒヤリハット 2 件発生。 靴下をはいてもらうため介助を行っていたがその際に爪をひっかけてしまい、爪がはがれてしまう。介助方法を見直す必要があり、爪だけでなく体全体の状態をしっかりと把握してから介助を行うよう徹底する。
R6 年 9 月 8 日(日)	R6 年 8 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 5 件発生。 誤薬が発生。他の利用者の薬と間違えてしまい服薬してしまった。誤薬による危険性を再度確認し、再発防止の為、服薬前にしっかりと名前を言いながら服薬するよう徹底する。
R6 年 10 月 18 日(金)	R6 年 9 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 2 件、ヒヤリハット 2 件発生。 夜間の転倒事故が発生。自立歩行可能な利用者ではあるが、常に転倒リスクがあることを再度確認し可能な限り見守りを行い、転倒防止に努める。
R6 年 11 月 17 日(日)	R6 年 10 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 5 件、ヒヤリハット 1 件発生。 車いすからの滑落が増えており、見守り不足も感じられる。他の方の介助をする際には近くに移動してもらう等少しでも見守りが可能な状態を作る。
R6 年 12 月 11 日(水)	R6 年 11 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 3 件発生。 居室内で転倒している状態を発見する。普段より自立歩行可能な利用者が居室内で作業をしている時に転倒させる。居室内を見守るのが難しい場合は職員から声をかけ、見守りできる時間に作業をしてもらうようにする。
R7 年 1 月 27 日(月)	R6 年 12 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 5 件発生。 トイレ時に転倒される。ご自分でトイレに行かれており、起床後ということで足元がおぼつかず転倒したと思われる。羞恥心もありトイレ時の見守りは難しいが、扉の外で待つなどして少しの変化でもすぐに対応できるようにする。
R7 年 2 月 19 日(水)	R7 年 1 月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故 3 件発生。 誤嚥事故発生。他の利用者の声にて発見する。少しずつ嚥下状態が悪く

	なってきた。今回は無事に掻き出すことができたが、今後も同じようなことが起こる可能性がある為、見守りできる位置に食事席を変え、しっかりと見守りしながら食事をしてもらう。
R7年3月31日(月)	R7年2月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故1件発生。 職員が他の作業中に居室のセンサーが反応し訪室するとすでに尻もちをついていた。自力にて車いすに座ろうとされたようなので移る際にはナースコールを押してもらうよう説明する。必要があれば、センサーの反応を早いものに交換し再発防止をする。
R7年4月30日(水)	R7年3月のヒヤリハット、事故報告の検証 事故4件、ヒヤリハット1件発生。 他の利用者の薬を入れたコップを物触しているところを発見する。普段よりゼリーなどを常に欲しがると見つけると食べようとされる。その時は物触だけで誤薬はされていない。薬などが入っている場合は他の利用者が手の届くところには置かず、しっかりと保管できる場所に置くように徹底する。

《グループホーム梅本の里》

- ヒヤリ・ハット報告数 19件
- 事故報告数 50件

ヒヤリ・ハット報告数19件(令和5年度9件)、事故報告数50件(令和5年度56件)、計69件で前年度と比較して全体で4件の増となった。事故件数は前年度と比較し、6件の減となった。

一年間の検証として、転倒や滑落等の事故や落葉の事故が多数起きている。薬の落葉は、服薬時の見守り確認不足が原因なので、服薬時、その場から離れず服薬できるまで確認することで防げると思われる。また、前年度と比べヒヤリ・ハット数が10件増加していることから事故になる前に気付き対応できている。今後もヒヤリ・ハットの段階で気付き、事故に繋がらないよう職員一人一人意識して対応できるよう努める。

《デイサービス梅本の里》

- ヒヤリ・ハット報告数 2件
- 事故報告数 10件

ヒヤリ・ハット報告数2件(令和5年度4件)、事故報告数10件(令和5年度13件)、計12件で前年度と比較して5件の減となった。(内訳:転倒・滑落・膝折れ8件、離脱1件、異食1件、不注意1件、その他1件)

一年間の検証として、報告の7割程は転倒・滑落・膝折れ報告となっている。事故発生原因としては、職員の見守り不足で起こった事故が多く、他の業務をしている際やレクリエーション中など職員の見守りが行き届いていないことが分かった。又、離脱が1件あり、認知症状により、帰宅願望がある利用者に対しての見守り不十分や離脱することはないだろうと過信から発見が遅れてしまっている。

作業をしている際も見守りが不十分にならないように職員一人ひとりが事故に対する危機感を持ちながら、利用者の咄嗟の行動にも対応できるように声を掛け合い、利用者の状態把握に努めることで安全に過ごせる空間づくりに努める。

《デイサービス梅本の里・小梅》

○ヒヤリ・ハット報告数 0件

○事故報告数 14件

ヒヤリ・ハット報告数0件(令和5年度0件)、事故報告数14件(令和5年度15件)、計14件で前年度と比較し、事故報告1件減少している。(内訳:転倒・転落10件)

近年、転倒・転落の多いフロアに担当職員を配置することで、事故を未然に防げる体制が整っている。しかし、他の場所での転倒・転落が10件発生し、原因は職員の不注意や見守り不足にあった。職員の昼休憩時や他の業務による一時的な職員配置の偏りや、職員の情報共有不足により、発生していることが分かった。また、外傷は爪切りによるもので、注意して、落ち着いての対応が必要である。

利用者の状態変化を把握し、職員配置の偏りをなくし、職員間の5W1H及び情報共有や見守り体制を強化することで、事故再発防止に努める。

《訪問介護事業》

○ヒヤリ・ハット報告書 1件

○事故報告書 3件

令和6年度はヒヤリ・ハット1件(「転倒・転落」1件、)事故3件(「転倒・転落」「外傷」「その他」各1件)の報告があった。

ヒヤリ・ハットまたは事故報告については事業所内研修で取り上げ、全職員で防止対策を検討している。

令和6年度はヘルパーの訪問忘れ(隔週利用)が発生した。その後の対策として、当該利用者の担当に、毎回、訪問前日に事業所から予定確認メールを送るようにしているが、今後、日々のスケジュール管理がより効率的に行える対策を検討している。

Ⅱ. 介護老人福祉施設事業

「特別養護老人ホーム 梅本の里」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

新型コロナウイルス・インフルエンザと 2 度のクラスターが発生するが、職員一人一人が過去の経験を教訓とし、適切な対策を執ったため、予想より短期期間での収束を迎えた事、入院者等を出すことなく過ごした事は大きく評価したい。

職員配置においては退職や長期休暇(傷病)が影響し、年間を通じて人員の適正化が図れない年となったが、この状況下において現存の職員で業務を補完し、入居者の生活を守れたことは評価できる部分である。

また、居室等の環境整備も都度行い、家族面会の再開と共に職員と家族との信頼関係が以前より深まっている実感があることから、より良い生活環境を提供し、適切なケアを実施することで入居者満足度を向上させていくことを継続する。

収支面においては、永眠等による退居者が新規入居者数を上回る時期があり、空室期間の発生が多くなり、法人経営の根幹を担う入居施設における大幅な収入減に繋がり、経営面的には大きな打撃を与える結果となった。

2. サービス目標

① 家族との関係構築

コロナ禍においては生活相談員・ケアマネージャーが中心に家族との関係を構築していたが、面会再開後は多くの家族が訪れるようになり、リーダー含め新人職員も積極的に家族とコミュニケーションをとる事で、入居者の情報を家族と共有することが可能となり、更に記録に残すことにより全職員が情報を共有したことで以前より家族との関係は深まった。

しかし、職員によってはコミュニケーション能力に差があることが課題として残ったことから、接遇関係を中心とした研修の実施が必要と感じている。

② リスクマネジメントの実施

令和 6 年度において原因不明の内出血等の事故が多くみられたため、研修計画に基づき、動画研修等で重大事故になる予兆がある内出血事案の早期発見・リスク委員会の開催の必要性について職員全員が学んだ。また、外部講師を招いての研修も開催し、少しずつであるが統一したエビデンスによる介護が実施でき、事故発生時の迅速な対応や適切な予防対策に繋がっている。

③ 入居者の満足度向上

退職者や長期療養の職員があり職員数を維持できず、余裕をもった余暇支援は実践できなかったが、外出企画やレクリエーションを少しずつ実施し、入居者満足度の向上に寄与した。

④ 環境整備

経年劣化していたフロアのエアコン・ボイラーを修繕・交換したことで快適な施設での生活の維持に繋がったが、築 30 年以上を経過した設備全般の修繕には予算の関係も含め、全ての修繕には至らず継続課題となった。

また、令和 6 年度から感染症発生時の備品のストックについて感染拡大防止の観点から見直し、

各フロアにて備品をストックするように変更したことで感染拡大の防止に繋がられている。

⑤看取りについて

看取り後のデスカンファレンスにより、看取り期に職員一人一人の考えたことを多く発言できる工夫を行った。それにより、今までできていなかった家族と共にエンゼルケア等を、実際にやっていけそうな状況に近づいていることを感じる事ができた。

3. 利用率

新規受け入れ数が退所者数を下回り、目標利用率 95%に対して 91.7%の結果に止まり、婦人事業の収入の根幹をなす入居施設として大幅減収となってしまった。

(作成責任者:特別養護老人ホーム梅本の里 生活相談員 竹田祥隆)

1. 事業概要

(1)施設名 特別養護老人ホーム 梅本の里

(2)所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)建物設備の状況

土地 6,005.98㎡ (ゆにっと・GH 併設)

建物 2,996.42㎡ (鉄筋コンクリート造り2階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	856.86 ㎡	相談室	1 室	15.52 ㎡
静養室	1 室	16.50 ㎡	応接室	1 室	13.95 ㎡
食堂兼 機能訓練室	3 室	423.46 ㎡	洗濯室	1 室	41.40 ㎡
浴室	1 室	69.30 ㎡	介護材料室	3 室	72.31 ㎡
脱衣室	1 室	35.91 ㎡	事務室	1 室	98.10 ㎡
便所	9 室	78.75 ㎡	地域交流センター	1 室	81.90 ㎡
医務室	1 室	16.50 ㎡	ボランティア室	1 室	10.83 ㎡
厨房	1 室	88.95 ㎡	理美容室	1 室	20.79 ㎡
介護職員室	2 室	50.14 ㎡	その他 (廊下、階段等)		981.53 ㎡
休憩室	2 室	23.72 ㎡			

(4)居室の状況(ショートステイ部分含む)

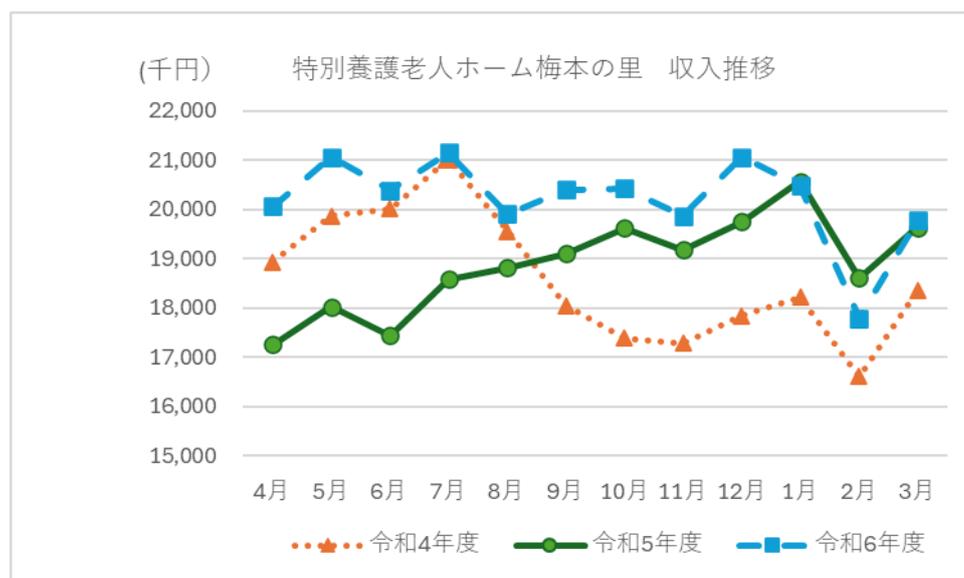
区分	室数	床面積	一人当面積A
個室	30 室	507.38 ㎡	16.91 ㎡
4 人部屋	10 室	349.48 ㎡	8.74 ㎡
計	40 室	856.86 ㎡	12.24 ㎡

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員59名)

	入所者数 (人)	新規入所者(人)				退所者(人)						
		在宅	その他	医療機関	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4月	58	1	0	1	2	0	0	0	0	2	0	2
5月	58	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
6月	58	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
7月	58	0	0	2	2	0	0	1	0	2	0	3
8月	56	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	2
9月	57	0	2	1	3	0	0	0	1	0	0	1
10月	59	1	0	1	2	0	0	0	2	1	0	3
11月	56	1	0	1	2	0	0	2	0	2	0	4
12月	57	0	2	1	3	0	0	0	0	1	0	1
1月	57	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	4
2月	55	0	1	1	2	0	0	2	0	0	0	2
3月	56	0	2	1	3	0	0	1	0	2	0	3
計	685	3	7	12	22	0	0	9	3	13	1	26



「特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

令和 6 年度 5 月に就労継続支援事業が開設し、「いつもの」の当初計画事業の全てがオープンしたことで見学者やレストランを訪れる方々が増え、施設自体が賑わい、地域の方のボランティア行事も増え、入居者の施設生活の楽しみに繋げることが多くあった。

また、「いつものキッチン」を利用することで、家族と入居者が食事する事が出来るようになり、新たな楽しみを増やす事ができるなど、施設事業の機能を活用した多くの活動を実施することができた。

面会についてもほぼ制限をなくしたことで前年度以上に家族面会が増え、職員と家族のコミュニケーションの機会が増えたことから、現状の様子を伝えるだけでなく、家族からの入居以前の情報共有に繋がっている。ただ、情報を生かしたケアを行うまでには至らず、情報を個別ケアに活かすことの課題が残った。

2. サービス目標利

① 家族との関わり

面会や運営推進会議等、家族と職員がコミュニケーションを取る機会が増えたことで信頼関係を築くことが出来た。

更に多くの家族と関わりを広げる為に、「いつものキッチン」を使用して食事が出来る事や、運営推進会議の参加を促す等の情報をどのように提供するか見直すことを課題としたい。

② 施設外行事

ドライブや散歩だけでなく個別の買い物や外出を行い、入居者に季節を感じてもらう事や楽しみを提供することが出来た。また、外出機会が増えた事で、外出時のリスクヘッジや企画作成を行う等職員の意識向上にも繋がった。

3. 利用率

体調の変化があれば早期受診していたが、長期入院や同じ入居者が繰り返し入院する等のケースがあり、入居時の調整がスムーズに行えず、同時期に複数の空き部屋ができたしまった結、利用率は 90.4%と目標に 4.6 ポイント及ばず目標を達成できなかった。

(作成責任者: 特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト 生活相談員 久保誠)

1. 事業概要

(1)施設名 特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト

(2)所在地 松山市平井町 1287 番地

(3)建物設備の状況

土地 9,805.08㎡(デイ併設)

建物 4,243.69㎡(木造・鉄筋コンクリート造金メッキ鋼板ぶき地下 1 階
付き平屋建て)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	39 室	527.90 ㎡	備蓄倉庫	5 室	57.48 ㎡
共同生活室・ キッチン	4 室	363.86 ㎡	洗濯室	1 室	8.25 ㎡
浴室	3 室	27.90 ㎡	汚物処理室	2 室	8.25 ㎡
脱衣室	3 室	42.40 ㎡	スタッフルーム	2 室	69.09 ㎡
便所	21 室	79.24 ㎡	ゲートルーム	1 室	21.93 ㎡
医務室	1 室	14.00 ㎡	職員休憩室	1 室	51.95 ㎡
介護材料室	2 室	28.22 ㎡	エントランスルーム・廊下	1 室	617.33 ㎡
リネン庫	1 室	14.00 ㎡	その他		2,311.89 ㎡

(4)居室の状況(ショートステイ部分含む)

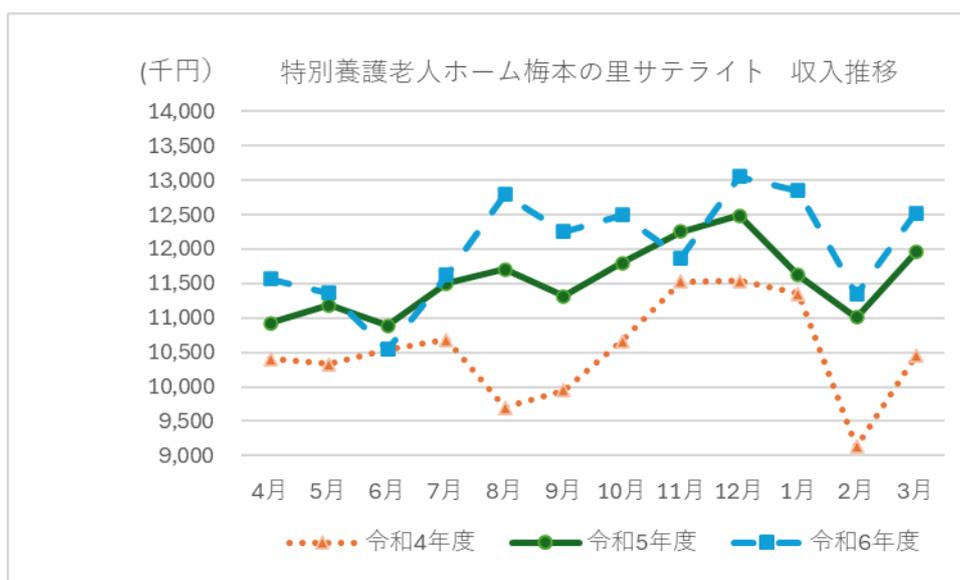
区分	室数	床面積	一人当面積A
ユニット型個室	38 室	514.9 ㎡	13.55 ㎡
ユニット型個室	1 室	13.0 ㎡	13.00 ㎡
合計	39 室	527.9 ㎡	13.54 ㎡

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員29名)

	入所者数 (人)	新規入所者(人)				退所者(人)						
		在宅	その他	医療機関	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	27	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	1
6月	25	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
7月	27	0	2	0	2	0	0	1	0	1	0	2
8月	29	1	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0
9月	29	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
10月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	29	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
1月	29	1	0	0	1	0	0	0	1	1	0	2
2月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	333	3	5	0	8	0	0	2	1	4	0	7



「特別養護老人ホーム 梅本の里ゆにっと」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

面会に来られる家族が徐々に増え、普段の様子を職員から直接お話しすることで信頼関係を築きながら安心感を持ってもらうことができた。そうした中で伝え方や伝わり方が相違するケースもあり、家族に不快感を持たれるケースも見受けられたことは課題として残った。

介護職員の質の向上もみられ、体調の変化にいち早く気づく体制を整えることで早期にも繋がっており、入院に至らないケースが増えている。

施設内のみで行っていた行事を徐々に増やし、季節を感じていただくようドライブや外食を実施し、楽しみを持った生活を送っていただくことでグループケアの実践に繋がったが、個別ケアの実施までには至らず、どのように一人一人に合わせて楽しみを持ってもらうか、ニーズを引き出すかの仕組み作りについての課題が残った。

2. サービス目標

① 家族との関わり

面会に来られる家族が増えたことから、家族と職員間での情報共有がこれまで以上に行え、信頼関係の構築にも繋がっている。その反面で職員からの伝え方の不備により、家族が不快な思いをするケースがみられ、接遇マナーの研修や統一した言葉遣いの重要性を感じている。

② 行事の拡大

入居者に季節を感じてもらうようにドライブの実施、また「いつものキッチン」を利用した外食等を実施し、グループケアは行ったが、個別ケアの実践までには至らなかった。

3. 利用率

職員間で体調の変化に素早く気づくスキルが身につき、入院を減らすことができたが、新規入居の決定までに時間をかけてしまったこと、更に次の入居者が決まらないことなどがあり、空床期間を減らすことができず、目標利用率 95% に対し 86.3% で、目標を大きく下回る結果となった。

(作成責任者: 特別養護老人ホームゆにっと 生活相談員 仲村竜哉)

1. 事業概要

(1)施設名 特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと

(2)所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)建物設備の状況

土地 6,005.98㎡(特養・GH 併設)

建物 2,945.72㎡(鉄骨造一部鉄筋コンクリート造り地上3階建地下1階)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	40 室	576.92 ㎡	備蓄倉庫	1 室	12.32 ㎡
共同生活室・ キッチン	4 室	201.00 ㎡	洗濯室	1 室	24.03 ㎡
浴室	6 室	93.13 ㎡	汚物処理室	2 室	8.99 ㎡
脱衣室	6 室	67.35 ㎡	汚物集積室	1 室	13.46 ㎡
便所	22 室	110.61 ㎡	スタッフルーム	2 室	30.27 ㎡
医務室	1 室	12.44 ㎡	ゲストルーム	1 室	11.59 ㎡
機能訓練室	1 室	12.55 ㎡	霊安室	1 室	11.45 ㎡
相談室	1 室	7.04 ㎡	職員休憩室	2 室	27.07 ㎡
介護材料室	1 室	6.10 ㎡	レクリエーションホール 兼会議室	1 室	220.91 ㎡
リネン庫	1 室	7.20 ㎡	その他		1491.29 ㎡

(4)居室の状況(ショートステイ部分含む)

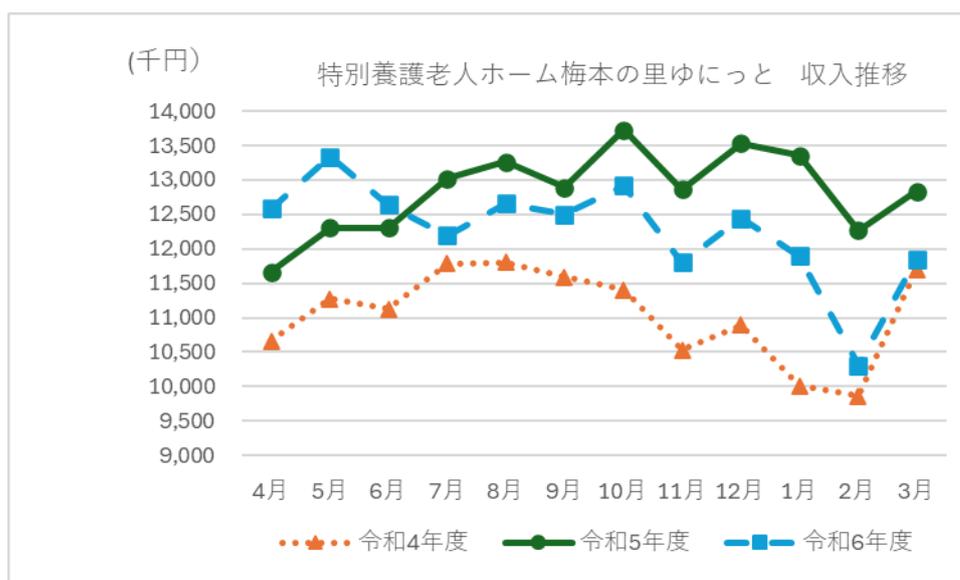
区分	室数	床面積	一人当面積A
ユニット型個室	40 室	576.92 ㎡	14.42 ㎡

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員30名)

	入所者数 (人)	新規入所者(人)				退所者(人)						
		在宅	その他	医療機関	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4月	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5月	29	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2
6月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
7月	27	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
8月	27	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
9月	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1
10月	28	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
11月	26	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0	2
12月	27	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
1月	26	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
2月	24	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
3月	25	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
計	323	8	1	1	10	0	0	2	1	9	1	13



Ⅲ. 認知症対応型共同生活介護事業

「グループホーム梅本の里」

【令和6年度のまとめ】

1. 総評

年間を通じて職員確保ができず、慢性的な人財不足に陥ったことから、現存の職員でカバーし、何とか業務を遂行したが、満足のいくケアの提供については入居者、ご家族にご迷惑をお掛けした1年となった。

運営推進会議をとおして入居者、ご家族との関りを増やすことができたことで、一定の信頼関係の構築と情報共有は図れたが、職員不足から地域との交流までは至らず、課題を残している。

また、ケアプランに入居者の思いを反映させ、グループホームでの生活に生きがいや楽しみが持てるように取り組んだ。

施設の設備面については、ある程度計画どおり経年劣化による設備改修・購入を順次実施し、安全で快適な環境を整えることができた。

利用率においては持病悪化による入院からの退居1名、看取りの方2名、他施設への入居が決まった方1名の退居があり、他事業所居宅介護支援事業所からの紹介や入居申込待ちの方から順に入居していただき空室の期間をなくすよう取り組んだが、利用率目標には届かなかった。

2. サービス目標

①地域、家族との連携

入居者と一緒に地域商店への買い物を通じての地域の方々と関わる機会の目標には至らなかったが、運営推進会議に地域の民生委員の方に参加してもらい意見交換することで、地域社会の情報共有は図れた。

また、運営推進会議の前にレクリエーションを企画し、ご家族に参加していただくことで、入居者と楽しむ機会を設けることができた。

②老朽化による設備、備品の買い替え

ソファ、キッチンスペースの電化製品等の買い替えにより、共有スペースの環境を整え、入居者が快適に過ごせる空間をつくった。

共有スペースを整えることで、TVでのYouTube等の活動が増え、楽しむことができる施設生活の提供ができた。

③個別性を重視したケアプラン作成

ケアプラン作成について職員全体で学びなおし、入居者の思いを反映させたケアプラン作りに努め、グループホームでの生活に生きがいや楽しみが持てるケアプランを作成した。

3. 利用率

入居待機者の担当ケアマネジャーとの連携を図り、なるべく早く入居できるように取り組んでいたが、感染症の影響から退居後の居室改装に時間がかかり、早期入居に影響を及ぼした。

また、入居者の入院後は家族との連絡も密にとり、状況把握を行ったが、長期入院のケースが影響し、利用率目標97%に対し利用率95.2%となり、1.8ポイント下回る結果となった。

(作成責任者:グループホーム梅本の里 管理者 小川 真弘)

1.事業概要

(1)施設名 グループホーム 梅本の里

(2)所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)建物設備の状況

土地 6,005.98㎡(特養・ゆにっと併設)

建物 719.50㎡(鉄筋コンクリート造り3階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室 1	16 室	196.32 ㎡	洗面所 1	16 室	40.32 ㎡
居室 2	2 室	35.32 ㎡	洗面所 2	2 室	5.36 ㎡
押入	18 室	14.58 ㎡	洗濯室	2 室	17.68 ㎡
事務室	2 室	14.58 ㎡	倉庫	2 室	47.05 ㎡
食堂	2 室	118.50 ㎡	トイレ	4 室	10.00 ㎡
リビング	2 室	28.05 ㎡	調理室	2 室	14.72 ㎡
浴室	2 室	13.12 ㎡	その他		122.60 ㎡
脱衣室	2 室	10.10 ㎡			
休憩室	1 室	31.20 ㎡			

(4)居室の状況

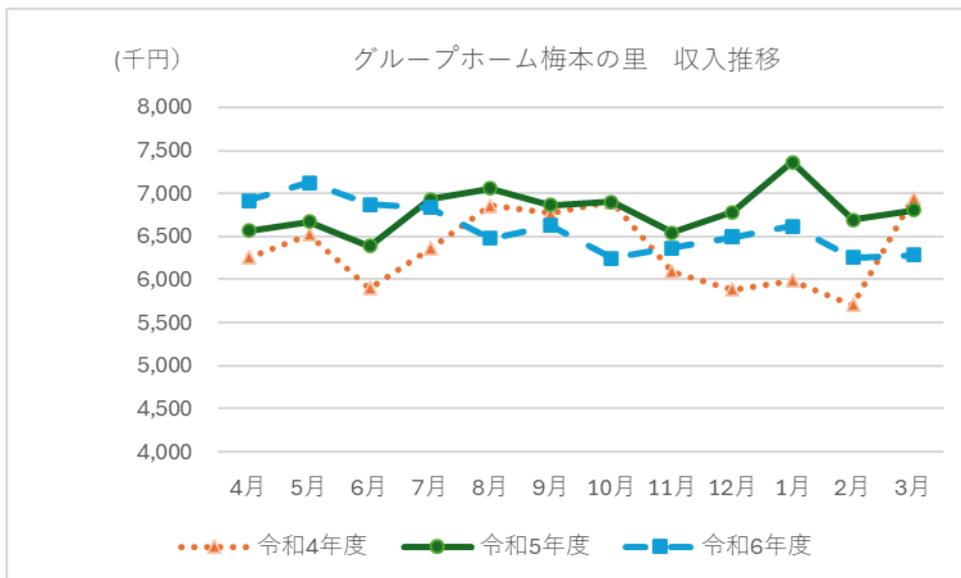
区分	室数	床面積	一人当面積
個室1	16 室	249.60 ㎡	15.60 ㎡
個室2	2 室	42.30 ㎡	21.15 ㎡
計	18 室	291.90 ㎡	16.22 ㎡

2. 入所者の状況

(1) 入所・退所状況

(定員18名)

	入所者数 (人)	新規入所者(人)				退所者(人)							
		在宅	その他	医療機関	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計	
4月	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
8月	18	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
9月	17	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
10月	16	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	18	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1
1月	18	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1
2月	18	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	211	5	1	0	6	0	0	2	1	3	0	0	6



IV. ケアハウス事業

「ケアハウス梅本の里」

【令和6年度 まとめ】

1. 総評

施設内行事は手作業や習字等の誰でも参加できる行事を継続して行ったが、どの行事も参加される方は同じ入居者になる傾向となり、ケアハウスでの生活において多くの入居者が楽しみを持つ上で、全員が参加できる敬老会や忘新年会等、ケアハウス全体での行事を再開することが課題として残った。

外出行事については、希望者を募って「いつものキッチン」へ食事に行く事ができ、普段交流の少ない方同士の話しが盛り上がるなど、新たな人間関係構築に繋がっていた。

感染予防対策としては、日々の手洗い・うがい・換気の声掛けを行う事で、入居者自身の感染予防への意識も高まり、一人ひとりが徹底して行っていた。

WEB 媒体の施設紹介からの入居に関する問い合わせや見学も多く、入居申し込みも増加したが、希望者との入居のタイミングが合わなかったことが多くあり、早期入居に繋がらなかったことで入居率に影響を及ぼした。

2. サービス目標

①生活相談

生活相談においても、日時を予定せず随時受け付ける形をとりながら相談を受けるようにしていたが、ADL低下や自分から状態変化等を訴えられない方には、各事業所と連携を図り、職員から家族やケアマネージャーに現状の報告・相談を行った上で本人にも説明し、必要な介護サービスの利用に繋がげながら安心してケアハウスでの生活が継続できるよう支援した。

②健康管理

日々の検温や換気、手洗い・うがいを行える環境整備と毎日の声掛けを実施した事で、入居者の感染予防は習慣化された。

夏に入居者8名が新型コロナウイルスに感染したが、発症確認後は迅速に居室で隔離対応を行ったことから、感染した入居者の体調が重症化することなく収束することができた。

③施設内外行事の充実と再開

施設外行事として、「いつものキッチン」に希望者をお連れし、いつもと違う雰囲気の中で他者との交流の機会をし、生活意欲の向上や気分転換に繋がるよう取り組んだ。

また、入居者のストレス緩和を目指し、家庭菜園活動や手作業・手作りおやつ等の行事で入居者間での交流の機会を増やし、新たな人間関係構築や維持に繋がよう援助したが、行事参加者が固定される傾向となり、課題を残している。

④家庭菜園活動

家庭菜園活動でさつま芋を育てて、収穫から食べるまでを目標に活動し、「芋の天ぷら」を作って全員に食べて頂く事ができた。

苗植えから水やり、収穫に多くの方が参加され、家庭菜園活動を楽しみされる方が増えたことで、菜園活動を通して身体機能の維持と、普段関わりが少ない入居者間の交流を深めるいい機会となった。

3. 利用率 98%目標

WEB 媒体の施設紹介からパンフレット希望者や見学者は大幅に増加したが、希望者との入居タイミングが合わず早期入居には繋がっていない。

また、生活困難による退居が続いた事と、抜本的なケアハウスへの入居希望者の減少により、空室期間が長期化してしまい目標利用率98%に対し94.4%と3.6ポイント目標を下回る結果となった。

(作成責任者:ケアハウス梅本の里 生活相談員 一井善光)

1. 事業概要

(1)施設名 軽費老人ホーム(ケアハウス)梅本の里

(2)所在地 松山市北梅本町 1624 番地 1

(3)建物設備の状況

土地 1,027.00㎡

建物 1,888.03㎡ (鉄筋コンクリート造り5階建)

設備

設 備	室数	床面積	設 備	室数	床面積
居室	30 室	675.90 ㎡	機能訓練室	1 室	252.45 ㎡
食堂	1 室	82.92 ㎡	更衣室	1 室	8.11 ㎡
浴室	2 室	67.67 ㎡	娯楽室	1 室	86.05 ㎡
洗面脱衣所	1 室	35.64 ㎡	談話室	2 室	52.88 ㎡
洗濯室	1 室	82.73 ㎡	その他		390.79 ㎡
トイレ	8 室	66.89 ㎡			
事務室・相談室	2 室	48.70 ㎡			
宿直室	1 室	12.04 ㎡			
ゲストルーム	1 室	10.56 ㎡			
会議室	1 室	14.70 ㎡			

(4)居室の状況

区分	室数	床面積	居室付属設備			
			洗面所	便所	調理設備	その他
個室	30 室	675.80 ㎡	有	有	有	

2.入所者の状況
 (1)入所・退所状況

(定員30名)

	入所者数 (人)	新規入所者(人)				退所者(人)						
		在宅	その他	医療機関	計	社会 復帰	家庭 復帰	医療機関 入院	他施設へ 転出	死亡	その他	計
4月	27	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
6月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	27	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	2
8月	28	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
9月	29	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
10月	29	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1
11月	30	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
12月	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	28	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
2月	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	29	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
計	341	6	1	0	7	0	1	1	3	0	0	5

(2)介護認定による内訳

(令和7年3月31日現在)

	自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	計
65～69歳	0	0	0	0	0	0
70～74歳	1	0	0	1	0	2
75～79歳	2	1	0	0	0	3
80～84歳	3	1	1	2	1	8
85歳以上	2	4	4	4	2	16
入所者計	8	6	5	7	3	29

内訳:男性 13名 平均年齢 男性 83.0歳
 女性 16名 女性 86.6歳

V.短期入所生活介護事業

「短期入所生活介護 梅本の里」

【令和 6 年度のまとめ】

1. 総評

特養と同時に新型コロナウイルス・インフルエンザと 2 度のクラスターが発生したが、職員一人一人が過去の経験等を教訓とし、適切な対策を執ったため、予想より短期期間での収束を迎えたこと、入院者等を出すことなく過ごした事は大きく評価したい。

困難事例の利用者を積極的に受け入れ、本人やご家族の意向に沿ったサービス提供に努めた事により、職員のスキルアップや連携姿勢については大きな成果が上がっている。

その成果に伴って、居宅介護支援事業所等からの利用相談が増加し、長期利用者の受け入れにも繋がったが、長期利用者の入院時の空き部屋の補充には苦戦し、課題を残した。

2. サービス目標

①ケアの継続

短期入所利用者の方は在宅に戻る事を前提としたケアを実践してきたが、コロナ禍においては十分に継続できなかつたことから、令和 6 年度はケアの継続を職員と一緒に目標として共有し、職員配置が安定できなかった中においても生活リハビリとして歩行訓練・立位訓練を実施し、ADLの低下を防止することができた。

②利用者の満足度向上

職員配置が安定しない中においても、外出企画やレクリエーションを少しずつ実施したことで利用者満足度の向上に寄与した。

また、小規模の外出や散歩等を実施し、閉塞感のない安息な時間を提供した。

③環境整備

従来型特養同様に、経年劣化しているフロアのエアコン・ボイラー等を交換し快適な施設利用の提供に努めたが、築 30 年以上を経過した設備全般の修繕に至らず、継続課題となっている。

3. 利用率

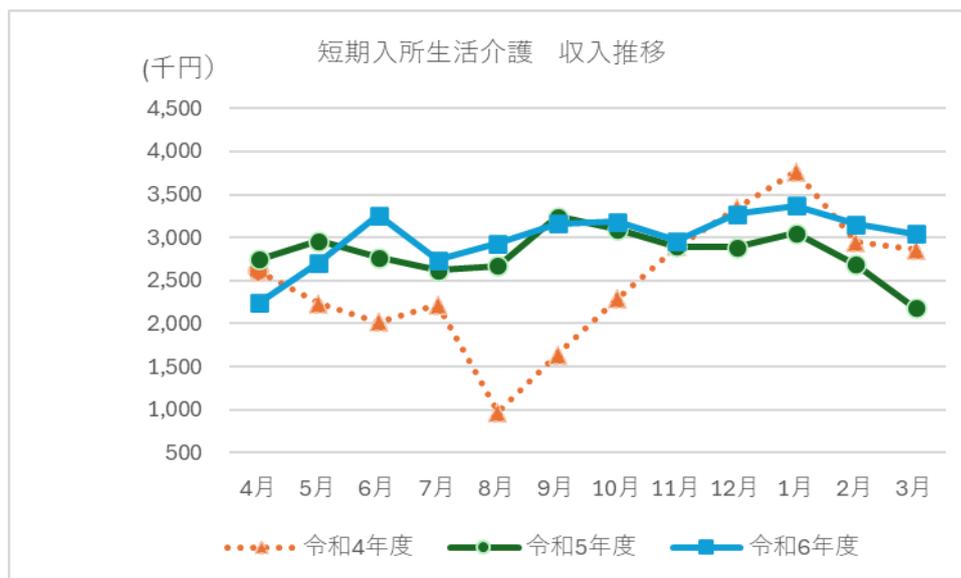
長期利用者を優先的に受け入れるなど工夫をしたが、体調不良によるキャンセル等の空き部屋の補充が十分にできなかったことから目標利用率 88%に対し利用率 79.8%で目標を下回る結果となってしまった。

(作成責任者:短期入所生活介護 梅本の里 生活相談員 竹田 祥隆)

1. 利用状況
 (1) 利用実績表

(定員11名)

	介護保険利用(人)									利用率 (%)
	実人数	延人数	1日平均	利用者要介護度別内訳						
				要支援 1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	11	202	6.7	0	1	4	2	1	3	61.2
5月	15	241	7.8	0	1	5	4	2	3	70.6
6月	12	293	9.8	1	0	4	2	2	3	88.8
7月	11	244	7.9	0	0	4	2	2	3	71.6
8月	14	264	8.5	1	1	4	4	1	3	77.4
9月	15	282	9.4	0	1	4	6	2	2	85.5
10月	13	287	9.3	0	2	5	3	1	2	84.2
11月	14	260	8.7	0	1	4	5	2	2	78.8
12月	14	291	9.4	0	1	4	5	2	2	85.3
1月	13	298	9.6	1	0	4	4	2	2	87.4
2月	16	282	10.1	0	1	5	5	2	3	91.6
3月	13	261	8.4	0	1	3	4	2	3	76.5
計	161	3,205	8.8	3	10	50	46	21	31	79.9



「梅本の里サテライト・ショートステイ」

【令和6年度まとめ】

1. 総評

新規利用者や緊急の受け入れが増加し、一時職員間での情報伝達が上手くいかない状況となったことから、職員間で協議し改善することで、情報伝達方法を確立することができた。

情報伝達がスムーズに実施できることで、新規利用者に対してもその方に合った介助方法を行うことや、より良い介助方法がないかを考える機会が多くなり、職員の技術向上にも繋がった。

また、就労継続支援事業が5月に開設し、「いつもの」の当初計画事業の全てがオープンしたことで施設を訪れる方が増え、見学や施設説明を希望される方も多く、その後利用に繋がるケースが増えている。

施設外の活動においては、散歩やドライブ等を行ったが、実施回数が少なかったり、地域の方と交流の機会を増やす行事までには至らなかった。

2. サービス目標

①職員意識共有

利用者の情報と利用時の状況を合わせ、どのような介助を行う事がよいか、職員でその都度協議し、職員間で共有することができた。

②利用者の満足度の充実。

タブレットを活用し、体操や歌等様々な活動を提供することができた。活動が苦手な方には、座席の移動や居室誘導など、生活リハビリにおいて活動して頂く等、各利用者に合わせて対応も行うことができた。

ただ、施設内行事が多く、施設外行事を充実させることができなかつたことには課題を残した。

3. 利用率

新規利用者や緊急の受け入れを積極的に行い、継続的な利用に繋がる方もいたが、単発利用の方が多かったことや、定期的な利用に繋がった方も利用回数が月2～4日の方が多く、安定した利用を継続することができず、利用率目標90%に11.7ポイント大幅に及ばず、利用率78.3%の結果となった。

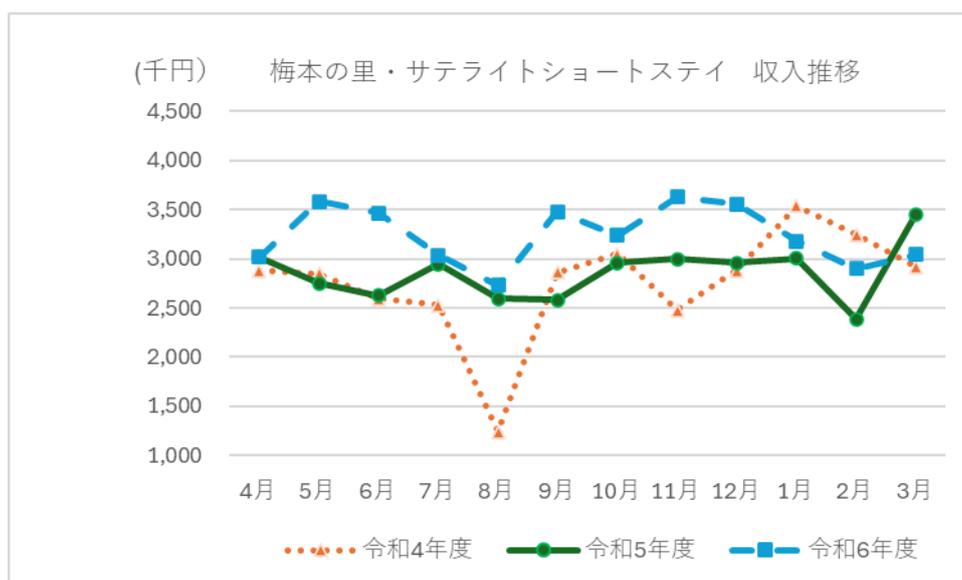
(作成責任者:特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト 生活相談員 久保誠)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員10名)

	介護保険利用(人)									利用率 (%)
	実人数	延人数	1日平均	利用者要介護度別内訳						
				要支援 1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	20	225	7.5	0	5	4	7	2	2	75.0
5月	22	267	8.6	3	6	2	6	3	2	86.1
6月	25	260	8.7	3	6	3	7	4	2	86.7
7月	24	218	7.0	1	8	1	6	4	4	70.3
8月	24	200	6.5	1	8	6	5	0	4	64.5
9月	26	257	8.6	0	10	6	5	2	3	85.7
10月	23	233	7.5	1	6	7	5	1	3	75.2
11月	27	258	8.6	2	7	6	5	3	4	86.0
12月	28	258	8.3	2	7	6	8	2	3	83.2
1月	23	227	7.3	1	6	3	7	3	3	73.2
2月	21	213	7.6	2	4	5	6	1	3	76.1
3月	27	242	7.8	2	9	6	6	1	3	78.1
計	290	2,858	7.8	18	82	55	73	26	36	78.3



「ショートステイ 梅本の里ゆにつと」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

施設内でのレクリエーションだけでなく、外出や外食を再開することで季節を感じる利用者の楽しみの一つとすることができた。

ただ、集団でのレクリエーションは実施することができたが、個別ケアに繋げることができず、利用者のニーズをしっかりと引き出し、利用者一人一人に合ったサービスの提供ができるよう再検討が必要となった。

定期的な利用がある方や長期利用の方に対しては、本人と家族の話を聞き取り、その人に合った生活環境として安心した生活を送れるサービスの提供ができた。

しかし、新規の利用者に対しては聞き取りが不十分なことがあり、自宅生活の延長という観点からは至らない部分が多く、施設生活が落ち着かない利用者もでてしまった。

また、声掛けや安全面での介護力の向上は図れた一年となったが、面会も自由になり、利用者だけでなく家族と関わる機会も増える中で職員間の接遇スキルの差を感じることも多く、接遇面の向上への課題が残った。

2. サービス目標

①環境整備

定期的な利用者については生活リズム等も把握でき、自宅での生活の雰囲気を出すことで安心して生活を送っていただくなど、一人一人に合った環境で過ごしていただくことで安心した生活を送って頂いた。

しかし、新規や短期利用者に対しては、細かな情報を聞き取れず、環境が大きく変わってしまうことで落ち着きのない施設生活となるケースが多くあった為、利用者個々の環境整備に対して改めて考え直す必要性を感じた。

②行事の再開

これまで施設内や敷地内のみで行っていた行事について、「いつもの」を利用した外食や季節に応じたドライブ等、外へ出向く行事を実施することで利用者の楽しみの一つとなった。

ただ、ユニット単位でのレクリエーションは行えたが、個別ケアの実施には至らず、実施内容を含めて令和 7 年度へ課題を残した。

3. 利用率

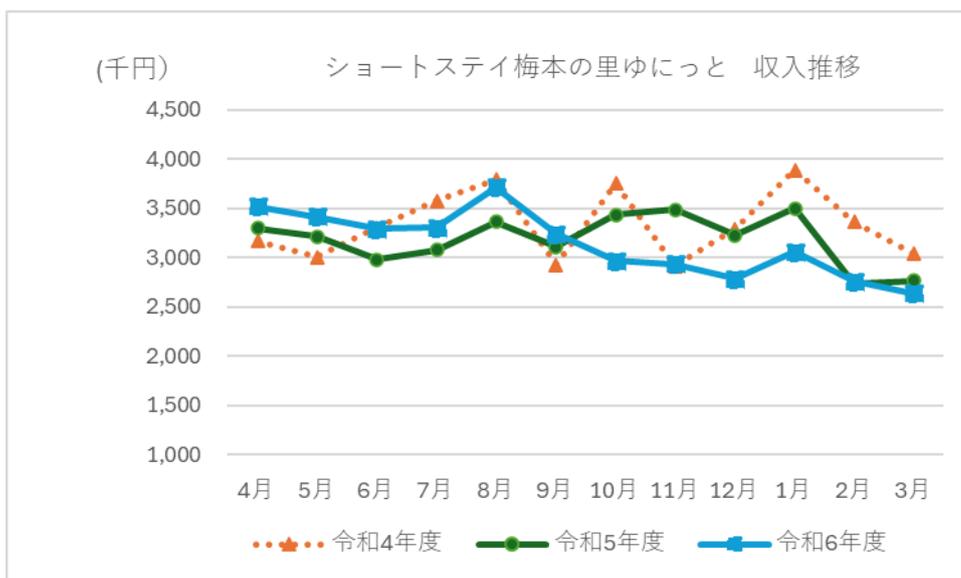
外出や外食など新たな特色を出すことができたが、長期的な利用に繋がらないことが多くあった。また、定期利用の方が入院されたことで空床や、新規利用の減少を要因として利用率目標 90%に対し 74%の結果で、目標を大幅に下回った。

(作成責任者:ショートステイ梅本の里ゆにつと 生活相談員 仲村竜哉)

1. 利用状況
 (1) 利用実績表

(定員10名)

	介護保険利用(人)									利用率 (%)
	実人数	延人数	1日平均	利用者要介護度別内訳						
				要支援 1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	15	258	8.6	1	3	2	3	5	1	86.0
5月	16	251	8.1	1	4	1	3	6	1	81.0
6月	15	241	8.0	0	3	1	4	6	1	80.3
7月	17	236	7.6	0	2	2	5	7	1	76.1
8月	20	269	8.7	2	4	2	5	5	2	86.8
9月	18	229	7.6	1	2	1	8	5	1	76.3
10月	16	206	6.6	0	2	1	8	4	1	66.5
11月	17	211	7.0	3	2	1	7	3	1	70.3
12月	18	197	6.4	0	3	3	8	3	1	63.5
1月	14	219	7.1	0	2	2	4	4	2	70.6
2月	16	197	7.0	1	2	1	6	4	2	70.4
3月	14	186	6.0	0	1	2	6	3	2	60.0
計	196	2,700	7.4	9	30	19	67	55	16	74.0



VI.通所介護事業

「デイサービス 梅本の里」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

令和 6 年度は同空間に就労支援事業 B 型で運営するレストラン・銭湯が開設され、法人目標の「ごちゃませ福祉」が本格的にスタートし、就労利用者をはじめ外部来客者、近隣の園児や学生、ボランティアの様々な方が日常的に「いつもの-itsumono-」に訪れ、デイサービス利用者との交流の機会にも繋がった。

敷地を活用して定期的に行事を開催すると共に、利用者の状態にあった脳トレやリハビリ、役割づくりの機会を持つ事で利用者の満足度向上が図れた。

共生型サービスについては、1 名の利用があったが、短期利用に終わったこと、また、介護保険の利用者で利用数の上限に達していることにより受け入れを控る形となっている。

2. サービス目標

①身体・認知機能維持・向上

身体機能維持に向け、利用者の在宅環境に合わせたリハビリの実施に努めたが、全利用者の状況把握までには至らず、今後の継続課題となっている。

自発的にリハビリルームに足を運び、リハビリ機器を使用して体を動かす利用者は限られていることから、職員がリハビリの声掛けを行い、身体を動かす機会を持てるよう取り組んだ。

また、定時の体操の時間やリハビリ委員会を主体とした月 2 回リハレクを実施し、日頃から体を動かすレクリエーションを多く取り入れ、楽しみながら筋力低下防止に繋がるよう意識した活動を行った。

認知機能維持に向けてはカラオケ機の機能を活用し、脳トレのレクリエーション実施や余暇時間には脳トレプリント、数字盤等のグッズの提供し、退屈にならない様に利用者一人ひとりの状態に合わせた支援を行うとともに、職員の手伝い等の役割づくりにも繋げている。

②施設内通貨『うーめ』と『いつもの』建物と敷地内を活用して意欲の活性化

「うーめ」支出に向けた取り組みとして「いつものカフェ」やイベント喫茶を毎月開催、「いつもの雑貨屋さん」を 4 ヶ月毎で実施し好評を得ることができ、「うーめ」の活用法が広がった。

また、春には外で食事会の実施や土筆採り、気候が良い時には散歩の実施や畑を活用して作った野菜の食事提供、平井保育園の園児と利用者で行った芋掘りイベントの開催、庭仕事が好きな利用者には玄関の花の手入れのお手伝い等、施設内だけでなく敷地を活用した楽しみと交流ができる活動を実施した。

③共生型サービスの取り組み

介護保険の利用者状況を確認しながら、共生型サービスの利用の受け入れを行ったが、エリア外に退去となってしまう短期利用で終わっている。その後は介護保険の利用者で利用枠が埋まってしまった為、受け入れを控える状況となった。

④地域との関わり

「いつものキッチン」空間を活用しながら小野小学校の 4 年生や平井保育園児、小梅託児所園児との交流会を実施した。

また、レストラン来客者の子供さんがレクリエーションに飛び入り参加するなど、地域の子供たちと利用者との交流の機会が多くあり、「いつもの-itsumono-」の空間を活かすことができた。

ボランティアについてもギター演奏、三線演奏、シャンソン歌謡、トーンチャイム演奏の多くの方にエントランスで演目を披露して頂き、デイサービス利用者だけでなく、サテライト特養入居者や地域の方、レストラン来客者などが自由に参加できる形で実施した。

3. 利用率

7 月下旬に職員と利用者新型コロナウイルスの感染者が急増したが、迅速に保健所に報告し、感染症拡大防止策を図り早期に終息させたことで通常運営を継続できている。

台風直撃により一日休業としたが、利用率の推移を見ながら新規の受け入れを増やすことで、安定経営に繋げることができた。

包括支援センターや居宅介護支援事業所からの問い合わせも多く、随時利用状況を確認しながら受け入れを行い、目標利用率 31 名/日に対し利用率 30.5 名/日とほぼ目標を達成することができた。

(作成責任者: デイサービス梅本の里 所長 佐伯誠治)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員45名)

	介護保険利用										利用率 (%)
	実人数	延人数	稼働日数 (日)	1日平均 (人)	利用者要介護度別内訳(人)						
					要支援 1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	86	761	26	29.3	26	28	19	5	3	5	94.5
5月	84	813	27	30.1	28	27	18	4	2	5	97.1
6月	88	795	25	31.8	29	28	17	7	2	5	102.6
7月	88	787	27	29.1	28	30	16	6	3	5	93.9
8月	84	729	26	28.0	24	31	15	7	2	5	90.3
9月	85	777	25	31.1	24	33	14	6	2	6	100.3
10月	82	852	27	31.6	24	30	13	7	2	6	101.9
11月	81	804	26	30.9	24	31	12	7	2	5	99.7
12月	85	827	26	31.8	23	32	13	8	3	6	102.6
1月	86	767	24	32.0	24	33	13	8	3	5	103.2
2月	81	758	24	31.6	24	33	9	9	3	3	101.9
3月	81	825	26	31.7	25	30	10	8	4	4	102.3
計	1,011	9,495	309	30.8	303	366	169	82	31	60	99.1

「デイサービスセンター梅本の里・小梅」

【令和6年度まとめ】

1. 総評

コロナ禍の過剰な感染対策から解放され、本格的なボランティア受け入れや駄菓子屋の再開で地域のサードプレイスとして賑やかな小梅に戻りつつあるが、デイサービス小梅としてのカラー再構築までには至らなかった。

テーマとして掲げていた「アットホームで団欒できる雰囲気」や「ノリがよく賑やかな雰囲気」においては、満足度の高い食事の提供、生きがいに繋がる役割の継続、託児所の子どもたちとの交流、歌あり笑いありの行事など活動を展開する事で、利用者の身体・認知機能の維持へと繋がり、温かな雰囲気に包まれた環境となった。

感染対策では基本的な手洗い消毒、換気などの習慣化や、利用者やその家族などの健康状態の把握、発熱時の早期隔離対応など迅速かつ柔軟な対応で感染拡大防止に努めた。

地域での役割においては地域住民の一員として「頼っていただく！地域への恩返し！」をテーマに、駄菓子屋営業に併せたエントランスホール開放、商店会夜市などの行事での屋外飲食スペースやトイレの開放、河川掃除や近隣公園の掃除などで積極的に地域活動を行ったが、コロナ禍以降の小梅の情報発信不足により、コロナ禍以前の活気を取り戻すことはできなかった。

2. サービス目標

①アットホームで家庭的な雰囲気の継続

プラン1 食べる楽しみの充実！

利用者から好評の食事を充実させるために、月1回全国名物料理や、祝祭日や四季折々の特別メニューを取り入れた。

お楽しみ選択メニューについては物価高騰の影響により実施することができなかったが、好評の献立についてはリクエストにも応え、満足度の高い食事を提供した。

また、物価の高騰の影響を受け、令和6年度、500円から600円に食事代の値上げを敢行したが、質や見た目が極力変わらない食事提供を継続した。

プラン2 ゆったりくつろぎの時間

施設内通貨「うーめ」のインプットとアウトプットが不透明な状況である中、利用者がマグネットを貼る習慣は託児の子どもからの働きかけもあり継続できた。

「うーめ」のアウトプットとなる「うーめ」売店や小梅カフェ、理美容室への送迎、フラワーや書道など、事業所内での現サービスには対応できたが、新たなメニューを生み出すには至っていない。

利用者の生きがいや役割などの働きかけツールとして「うーめ」は必要不可欠なモノであるため、ニーズに沿った新メニューの考案は課題となった。

くつろぎの時間を目指した入浴時間の拡大については、状況によって午後から対応したケースもあるが、浴槽の老朽化による湯温や室温等の環境問題の課題を改善できず、希望者が少なかった。

プラン3 家事と育児の両立

生きがいづくり、役割づくりとして、洗濯干し・たたみ、食器洗い、お盆拭きなどに加え、手作業の一環で新聞や広告折りなども働きかけ、取り組むことで生活習慣の維持を図った。

託児所の子どもたちとは朝の挨拶、運動会などの活気ある行事、利用者や園児の誕生会、カラオケなどで交流の機会を設けた。

ひ孫に向けるような眼差しで成長を見守り、“少しずつ距離を縮めて、いつかは抱っこしてやりたい”と生きがいにも繋がった。

プラン4 一体感のある賑やかな空間

ボランティア再開で、吟詠歌謡や三線、ギター演奏などの音楽レクリエーションに加え、その日の担当がプログラムを考える歌会、ことわざやクイズなどの脳トレでの珍解答など、歌あり笑いありの時間を共有した。

また、利用者も職員も一丸となる運動会やゲーム大会では、白熱バトルを繰り広げ、賑やかで自然と笑みが生まれる記憶に残る時間となった。

②地域における小梅の役割

6月から駄菓子屋の営業を週3日から週6日へ変更し、地域の子どもたちが気軽に立ち寄れる機会を多

くした。

大々的な駄菓子屋イベント開催には至らなかったが、小学生との職場体験での繋がりをきっかけに「お楽しみボールくじ」を実施すると、想像以上に小学4年生を中心とした子どもたちの出入りが盛んになった。

駄菓子屋の再開により職員と顔馴染みの関係性ができることで、以前のように子供たちのエントランスホールの活用も増え、子どもたちにとってのサードプレイスとなった。

地域の行事(平井商店会夜市・秋祭り)や、地区・組での奉仕活動へ積極的に参加しているが、小梅発信の企画には至らず、地域での役割において課題を残した。

③小梅3事業所合同委員会の設置運営

年2回合同委員会と各事業所でそれぞれ研修を開催した。合同委員会では、現状の実態と研修内容に加え、研修後の変化・成果なども情報共有した。

各事業所で様々な視点や気づきがあり、実態の把握や体験談を通じて知識を深めるいい機会となった。

3. 利用率

令和6年度も通常規模での運営となった。

利用者の健康状態の把握、必要に応じた感染症防止策を講じ、当日の利用受け入れや新規の受け入れなど積極的に行った。

日頃からの些細な情報を関係機関と共有し、連携を図りながら在宅生活の継続に努めたが、感染症対策による利用の見合わせ、急変による利用終了者が相次いだ。

また事業所の情報発信の取り組みが皆無であったことから、松山市内外の居宅介護支援事業所への挨拶回りを実行するなど情報の周知を図ったが、事業運営における巻き返しとはならず、目標利用率31名/日に対し24.9名/日と目標を約6.1名/日も下回る結果となった。

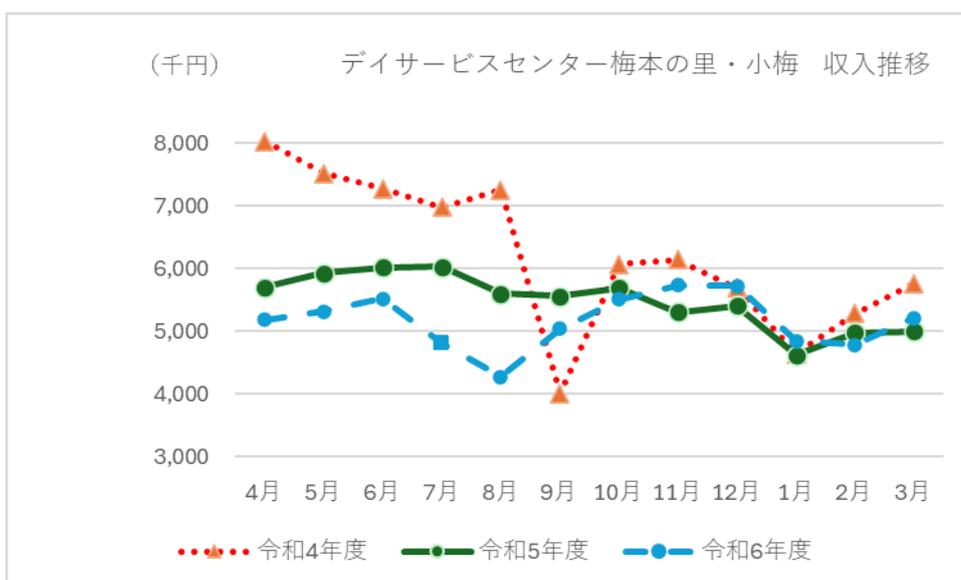
(作成責任者: デイサービスセンター梅本の里・小梅 生活相談員 稲荷衆一)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員45名)

	介護保険利用										利用率 (%)
	実人数	延人数	稼働日数 (日)	1日平均 (人)	利用者要介護度別内訳 (人)						
					要支援 1・2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
4月	62	628	26	24.2	15	27	9	5	3	3	78.1
5月	62	652	27	24.1	14	28	9	4	4	3	77.7
6月	67	657	25	26.3	16	29	10	4	5	3	84.8
7月	62	577	27	21.4	14	27	9	4	5	3	69.0
8月	57	531	26	20.4	14	26	8	4	2	3	65.8
9月	62	624	25	25.0	18	27	9	4	2	2	80.6
10月	62	683	27	25.3	16	28	9	4	3	2	81.6
11月	67	708	26	27.2	19	28	8	6	4	2	87.7
12月	67	693	26	26.7	19	27	9	6	4	2	86.1
1月	63	597	24	24.9	17	27	11	3	3	2	80.3
2月	60	586	24	24.4	17	25	11	2	3	2	78.7
3月	63	644	26	24.8	16	28	12	3	2	2	80.0
計	754	7,580	309	24.6	195	327	114	49	40	29	79.2



VII.訪問介護事業

「訪問介護事業」

【令和 6 年度まとめ】

1. 総評

令和 6 年度は正職員 1 名と登録ヘルパー 4 名が退職し、前年度にもまして職員数が減少した。

ここ数年の懸案事項である IT を活用した記録や情報共有については、今年度も実現しなかったが、複数の介護記録システムのデモを実施し、IT 化に向けた準備は進んでいる。

研修については、前年度に引き続き個別計画に沿った研修を実施した。また、可能な限り、外部研修やオンライン研修に参加することで、知識・技術の研鑽に努めたこと、加えてメンタル面で利用者様との関わり方についての考察を深めた。

委員会の参加については、小梅拠点で虐待防止委員会、感染防止対策委員会をそれぞれ年 2 回開催し、感染症および災害発生時の事業継続計画についても、事業所内での周知と行動訓練を実施した。

2. サービス目標

①人財育成・事業所体制の充実

令和 6 年度、正職員 1 名と登録ヘルパーが 4 名退職し、13 名だった職員が年度末には 8 名となり、登録ヘルパーの稼働率は依然低いままで利用件数も伸び悩み、事業所体制の充実には至っていない。

また、介護報酬の減額も重なり、収益は伸びず、事業自体の存続の危機がより深刻化している。

②記録業務の効率化と研修の充実

情報共有ツールの IT 化は実現しなかったが、法人全体のシステム変更に向けたデモを実施し、今後システム変更があれば、よりスムーズに対応できるような取り掛かりとなった。

令和 5 年度に引き続き、個別研修計画に基づくグループ研修と発表、オンライン研修システムを駆使して、事業所内研修や必須研修の受講をすることが出来たこと、管理者による外部研修やオンライン研修にも積極的に取り組み、事業所内研修でのフィードバックを行った。

③委員会の発足及び事業継続計画の策定

小梅拠点の 3 事業所で虐待防止委員会、感染対策委員会それぞれ年 2 回開催し、令和 6 年度の活動・研修等は自事業所内で行い、委員会の場で共有した。

また、感染症および災害発生時の事業存続計画については、事業所内での周知と行動訓練を実施し、状況に応じた改定を加えた。

3. 利用率

利用者数・件数・サービス提供時間は以下のとおりで、要介護件数目標で利用率 58%、要支援利用時間目標で利用率 108%の結果となり、大幅な収支減の結果となった。

<1 年間利用者数>

要介護合計 312 名 1 ヶ月平均 26 名

要支援合計 328 名 1 ヶ月平均 27 名

<1 年間活動回数>

要介護合計 2,777 件 1 ヶ月平均 231 件 1 日平均 7.6 件(目標 13 件)

要支援合計 1,969 件 1 ヶ月平均 175 件 1 日平均 5.4 時間(目標 5.0 時間)

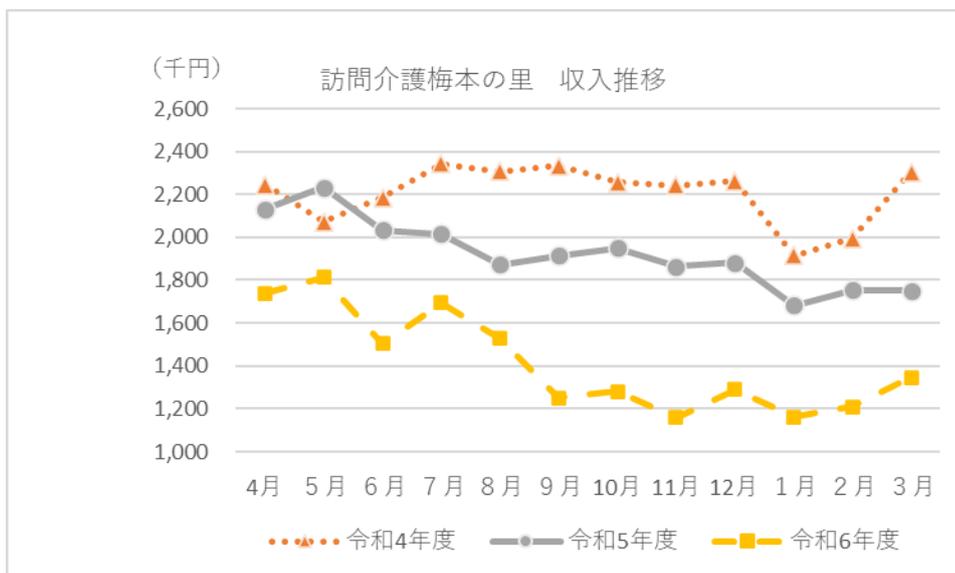
(作成責任者:訪問介護事業 梅本の里 管理者 荻野桂子)

1. 利用状況

(1)利用実績表

	実人数	回数	延時間	実人数	
				要介護	要支援
4月	56	508	550 : 20	32	24
5月	56	532	555 : 00	33	23
6月	54	420	463 : 30	30	24
7月	51	490	515 : 55	26	25
8月	55	420	442 : 25	29	26
9月	52	352	397 : 25	26	26
10月	51	377	406 : 20	26	25
11月	52	310	362 : 45	24	28
12月	53	354	346 : 25	23	30
1月	56	315	294 : 00	22	34
2月	51	309	334 : 20	20	31
3月	53	359	341 : 10	21	32
計	640	4,746	5,009 : 35	312	328

	利用者数		活動回数		
	年間合計	1カ月平均	年間合計	1カ月平均	1日平均
要介護	312名	26名	2,777件	231件	8件
要支援	328名	27名	1,969件	164件	5件



VIII. 居宅介護支援事業

「居宅介護支援事業所 梅本の里」

【令和6年度まとめ】

1. 総評

令和6年度の下半期にケアマネ1名の増員を検討していたが、全体的な収支面を考慮し、現存の職員4名での安定した体制を継続することとなった。

ケアマネ業務に必須である主任介護支援専門員研修受講・更新、ケアマネ資格の更新と1年通して法廷研修を4名中3名が今年度受講したが、昨今の課題にも挙げられているよう研修に係る負担は大きく、業務との両立で多忙感極まる1年となった。

また、今年度においてケアマネ4名中正職員が1名(嘱託2名、非常勤1名)の体制となり、正職員は現時点ですでにかなりの負担感とプレッシャーを抱えているのが感じられたため、今後はそれぞれのワークバランスを考慮しながら、正職員に過度に負担が集中しないように、他職員の理解・協力を得られる体制とすることが課題となっている。

当事業所の職員は10年を超えるベテラン域に達しており、各自が長年の経験を活かしながら、利用者や家族の相談に応じることが地域貢献と考え活動しているが、今後、更に長く介護支援専門員という仕事を続けるために、バーンアウトしない働き方を現実的かつ具体的に考えていく事は大きな課題となる。

2. サービス目標

新しい職員の加入もあったため、新たな視点や経験値を共有し、マネジメントの質を向上させることを目指した。

①定例会・他法人との合同研修の充実

定例会ではインターネットによる研修プログラム(ジョブメドレーアカデミー)やケアマネージャー冊子を活用し、各自の視点で内容を取り上げた。

また、他法人との事例検討会を実施し、幅広い学びの機会を持ったことや、加算や運営基準に必要な研修も実施した。

②主任介護支援専門員資格取得

新たに1名、主任介護支援専門員資格を取得したと同時に、主任介護支援専門員更新、専門Ⅱの更新研修も対象職員も受講し、必要な資格の取得更新は行えた。

③情報共有(同行訪問継続を含む)

情報共有の一環として計画していた同行訪問については、年度始まりの数か月は2~3名実施したが、日々の業務に忙殺される中で習慣化に至らなかった。

ただし、この目標は業務継続に通ずる事柄であることから、今後において数名においても実践する継続的な課題とする。

④委員会の運営

小梅拠点3事業で立ち上げた「虐待防止委員会」「感染症対策委員会」については、年2回の委員会を実施し、各部署必要な研修も実施した。

合同で行う事での研修効果や各事業所の動向などを共有する機会となった。

3. 利用率

介護 100件/月(目標117件/月) 支援 39件/月(目標32件/月)

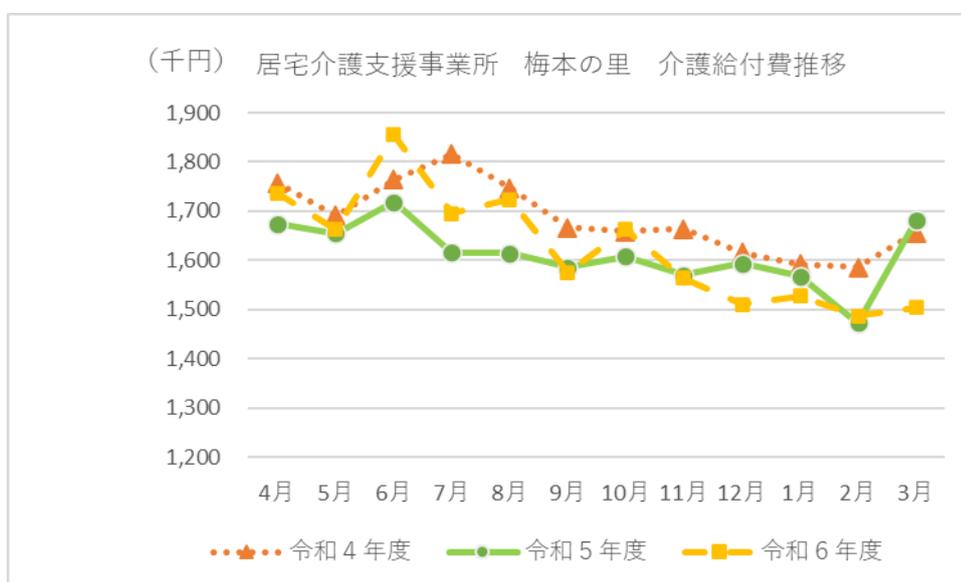
介護は維持目標に届かず、予防は維持目標を上回る結果となったが、収支においては下半期の職員体制を見直したため、目標をほぼ達成できている。

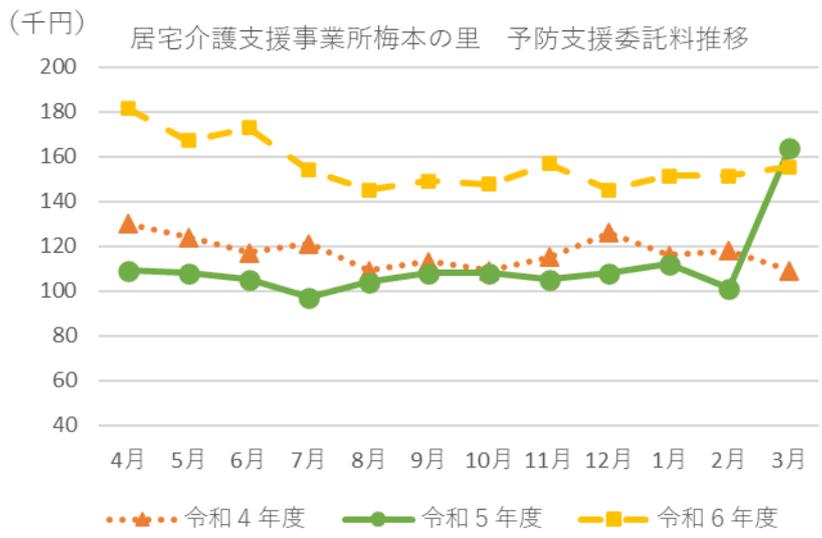
(作成責任者:指定居宅介護支援事業所 梅本の里 管理者 丹下明子)

1. 利用状況

(1)利用実績表

	件数	要介護度別内訳						
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	152	23	21	49	29	13	11	6
5月	149	24	18	48	30	10	12	7
6月	151	24	18	47	28	14	12	8
7月	147	24	14	46	26	14	15	8
8月	139	24	13	47	22	11	14	8
9月	137	25	13	47	18	13	14	7
10月	137	24	13	49	19	14	14	4
11月	134	24	14	48	18	13	12	5
12月	131	23	14	50	17	12	11	4
1月	131	24	14	47	19	12	11	4
2月	130	24	14	46	18	12	12	4
3月	131	24	15	45	19	12	12	4
計	1,669	287	181	569	263	150	150	69





IX.障害事業

「就労継続支援(B型)いつもの」

【令和6年度まとめ】

1. 総評

新型コロナウイルスの影響を受け、3年強の計画停止を余儀なくされていた事業であるが、ようやく令和6年4月1日付で松山市からの認可を受け、地域限定の「いつものキッチン」プレオープンイベントを経て、5月11日に就労事業で運営する「いつものキッチン」「いつもの湯」を正式にオープンすることができた。

開設当初は周知もされておらず、集客にも苦戦したが、SNSやチラシでの発信、割引券の配布、小野小学生に授業の一環として「いつもの-itsumono-」訪れてもらったのアンケート実施、更には「いつものホール」を解放し、他団体や他事業所の方が訪れる機会を設けるなどの活動により、年度の後半には来客者や常連客が増え、月に4回程度は10名以上の予約が入るようになった。

ただ「いつもの湯」については、営業時間(10時～16時)による影響からか、1日2～3名程度の利用で、今後への課題を残す形となっている。

就労利用者については、法人初の障がい事業へのチャレンジということもあり、他事業所へのアプローチ不足により活動が疎かになってしまい、利用者獲得は年度末まで苦戦が続いて収支に大きな影響を与えてしまった。

いつものキッチン、いつもの湯利用者数

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッチン	250	341	290	383	324	349	310	446	392	390	442	3,917名
湯	47	68	64	69	63	68	43	77	51	58	60	668名

2. 利用率

就労利用者募集チラシを作成し、相談支援センター等の各事業所に開設前から挨拶周りを行いアピールしたが、利用者の新規獲得には年間を通じ苦戦し、8月にようやく1名の利用が決まる状況となった。

その後も継続して利用者獲得に繋がれず、3月末でようやく6名の利用者となった。

運営面での形は整いつつあるが、令和6年度収支においては予算を大きく下回る結果となっている。

(作成責任者:就労継続支援事業 サービス管理責任者 河野聡子)

1. 利用状況

(1) 利用実績表

(定員 20 名)

	実人数	延人数	稼働日数 (日)	1日平均 (人)	利用率 (%)
4月	0	0	25	0.0	0
5月	0	0	27	0.0	0
6月	0	0	25	0.0	0
7月	0	0	27	0.0	0
8月	1	17	27	0.7	3.1
9月	1	20	25	1.0	4.0
10月	3	29	27	1.3	5.4
11月	2	41	26	1.9	7.9
12月	2	41	26	2.0	7.9
1月	3	46	27	2.0	8.5
2月	5	74	24	3.7	15.4
3月	6	102	26	4.9	19.6
計	23	370	312	1.6	6

X.その他事業活動

1.事業所内託児所小梅

【令和6年度まとめ】

1. 総評

園児一人ひとりの個性を大切に、発達段階に合わせた活動を展開した。

家庭環境の変化に寄り添い、園児の心身の安定や保護者のサポートを含め、安心して利用できる運営を実践した。

散歩や公園など戸外遊びを通じて、近隣の方とのふれあいや近隣の幼稚園や保育園など交流を深めることができた。

また、「いつものキッチン」への外食企画を定期的実施し、いつもと違う雰囲気での食事の楽しみや外食マナーを学んだこと、更にデイサービス梅本の里やいつものキッチンのお客様と関わる機会が増えたことで、子ども達から進んで元気に挨拶する姿が見られるようになった。

感染対策については家庭での様子確認やれんらくノートでの情報共有、保育では手洗いや換気の習慣づくりと体調不良時の隔離対応を実践し、予防と蔓延防止に努め、デイサービスとの交流においても感染発生時の一時的な隔離や、登園帰園時の引き渡し場所や方法など適宜変更し、柔軟な対応で安心して預けられる体制を確保した。

運営面では地域枠受け入れを目標に運営委員会で更なる具体的な運営方針や体制を整える予定であったが、給食サービスや収支面の課題で躓き、年度途中で委員会の開催が経ちきれ、地域枠受け入れの事業展開までに至らなかった。

2. 保育目標

利用状況に応じた年齢別の月間・年間指導計画の見直しや作成、個別での日案・週案を立案して保育の実施をした。

一人ひとりの個性や成長に合わせた活動の展開、子ども同士の良好な関係、思いやり・労り・好奇心旺盛な心を育んだ。

3. 利用率

令和6年度、開所日数 301 日、延利用園児 1,446 名、1 日平均利用 4.8 名であった。

新たな採用者及び育休復帰職員、また職員孫の受け入れを行い、年間を通じて安定した利用はあったが、職員の福利厚生範囲にとどまり、今年度においても収支は大幅なマイナス収支となっている。

(作成責任者: デイサービスセンター梅本の里・小梅 生活相談員 稲荷衆一)

XI. その他の活動

1.施設実習受入状況

①介護保険サービス

期間	学校名	活動内容	施設名	人員
R6. 5.27～R6. 5.29	河原医療大学校 看護科	臨地実習	デイサービス梅本の里	4
R6. 7.29～R6. 7.31	河原医療大学校 看護科	臨地実習	デイサービス梅本の里	3
R6. 9. 9～R6.10.11	河原医療福祉専門学校 介護福祉科	施設実習	特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと	2
R6. 9. 9～R6.10.12	河原医療福祉専門学校 介護福祉科	施設実習	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト	2
R6. 9.17～R6. 9.26 R6.10.15～R6.10.18	松山学院高等学校 福祉科	施設実習	特別養護老人ホーム梅本の里	2
R6. 9.10～R6. 9.13	小野中学校 職場体験学習	実習	デイサービス梅本の里	2

②障害福祉サービス

期間	学校名	人数	活動内容
R6.8.19～R6.8.30	みなら特別支援学校	3年生1名	臨地実習
R6.11.7～R6.11.20	みなら特別支援学校	2年生1名、 3年生1名	臨地実習
R7.3.17～R7.3.21	就労移行支援事業ワークメイト	27歳 1名	体験実習
R7.3.21～R7.37	みなら特別支援学校	2年生1名	臨地実習

2.見学・研修等受け入れ状況

日程	学校名等	施設名	活動内容	人員
R6.4.27	河原医療福祉専門学校	デイサービス梅本の里	オープンキャンパス	高校生等
R6. 5. 3	ナーシングホームふくのかみ	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト	研修（入浴・排泄介助）	4
R6. 5. 6	ナーシングホームふくのかみ	特別養護老人ホーム梅本の里ゆにっと	研修（入浴・排泄介助）	4
R6. 6.10	松山市立小野小学校 4年生	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト デイサービス梅本の里	校外学習	全クラス
R6. 6.12	介護労働安定センター	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト デイサービス梅本の里	施設見学	34
R6. 6.14	松山市立小野小学校 4年生	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト デイサービス梅本の里	校外学習	全クラス
R6. 6.19	松山市立小野小学校 4年生	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト デイサービス梅本の里	校外学習	全クラス
R6. 9.19	愛媛県立東温高等学校	デイサービス梅本の里	インタビューシップ	4
R6.10.17	愛媛県立松山東高等学校	デイサービス梅本の里	インタビューシップ	2
R6. 8.24	河原医療福祉専門学校	特別養護老人ホーム梅本の里・サテライト デイサービス梅本の里	オープンキャンパス	高校生等
R6.10.28 , R6.11.1, R6.11. 6～R6.11. 8	松山市立小野小学校 4年生	デイサービス梅本の里	交流	全クラス
R6.11.21	愛媛県立松山北高等学校	デイサービス梅本の里	フィールドスタディ	5

3 ボランティア受け入れ状況

ボランティア団体の方々が施設を訪問して頂き、ご利用者の方々と交流を図り、楽しい充実した時間を過ごせるように様々な活動を行って頂きました。

○デイサービス梅本の里

団体名	活動内容	年間延人数
松尾芳紀と仲間たち	シャンソン歌謡ショー	3名
宮崎良樹	三線わくわくライブ	5名
安平勝	フォークソングライブ	5名
トーンチャイムレインボー	トーンチャイム演奏	8名
小野小学校4年生5クラス	合唱・劇・ダンス・クイズ	150名

○デイサービスセンター梅本の里・小梅

団体名	活動内容	年間延人数
宮崎さんとはじける会	音楽レクリエーション	10名
松岡さんと詩吟歌謡	音楽レクリエーション	6名
安平さんギター	音楽レクリエーション	8名
児童発達支援センター・放課後等デイサービス ツムグ	プレゼント渡し	8名
りくかいくうさんと交流会	歌・踊り・遊び・プレゼント渡し	14名
トーンチャイムレインボー	音楽レクリエーション	3名

(敬称は、省略させていただいております。)